

○資 料 編

資料編 1 計画改訂の経過

資料編 2 市民ニーズの把握

資料編 3 滝川市 緑に関する市民懇談会開催結果

資料編 4 緑の基本計画の改訂に係る市民説明会の
開催結果

資料編 5 公園機能の集約・再編にかかる検討資料
(エリアごとのメッシュ将来推計人口等)

資料編 6 滝川市緑の基本計画（案）に関する意見
募集について

資料編 1 計画改訂の経過

資料編 1 計画改訂の経過

開催・実施時期	内 容
平成 29 年 6 月	滝川市緑の基本計画改訂に着手・改訂作業開始
平成 29 年 7 月 24 日～ 8 月 18 日	市民アンケートの実施 (1,500 票配布、564 票回収 (回収率 37.6%))
11 月 10 日	緑に関する市民懇談会 (市民 12 名参加)
平成 30 年 3 月	滝川市緑の基本計画 (中間素案) 完成
10 月 30 日	緑に関する市民懇談会 (第 1 回) 開催 (市民 10 名参加)
11 月 6 日	緑に関する市民懇談会 (第 2 回) 開催 (市民 10 名参加)
平成 31 年 2 月 13 日	北海道協議
平成 31 年 3 月	滝川市緑の基本計画 (案) 完成
3 月 19 日	滝川市緑の基本計画改訂について経済建設常任委員会にて説明
3 月 19 日～ 4 月 2 日	滝川市緑の基本計画 (案) に関する意見募集
令和元年 7 月 9 日～ 8 月 1 日	滝川市緑の基本計画の改訂に係る市民説明会 (9 地区で開催、延べ 84 名参加)
8 月 26 日～ 9 月 3 日	公園利用実態調査に関するアンケートの実施 (市内 6 小学校、延べ 569 名)
10 月 11 日	北海道協議
11 月 5 日	滝川市緑の基本計画 (案) 完成
11 月 22 日	滝川市緑の基本計画改訂について経済建設常任委員会にて説明
12 月 10 日	滝川市都市計画審議会 報告
令和 2 年 1 月 17 日～ 1 月 31 日	滝川市緑の基本計画 (案) に関する意見募集
2 月 6 日	北海道知事に変更通知書提出
3 月 1 日	ホームページに公表

資料編 2 市民ニーズの把握

資料編 2 市民ニーズの把握

(1) 市民アンケート

・滝川市の緑に対する市民の意識や評価、今後の意向についてのニーズを把握するため、市民アンケートを実施しました。

【実施内容】

実施時期：平成 29 年 7 月 24 日～8 月 18 日

配布数：1,500 票 回収数：564 票（回収率 37.6%）

・設問項目

- I 回答者属性（問 1～問 6）
- II 滝川市の緑の現状について（問 7～問 8）
- III 将来の滝川市の緑について（問 9～問 11）
- IV 緑のまちづくりへの参加について（問 12～問 13）

・回答者属性

表 年代別の回答者数

選択肢	回答数	構成比
10代	8	1.4%
20代	29	5.2%
30代	59	10.7%
40代	84	15.2%
50代	78	14.1%
60代	120	21.7%
70代	118	21.3%
80歳以上	57	10.3%
合計	553	100.0%

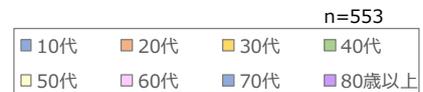
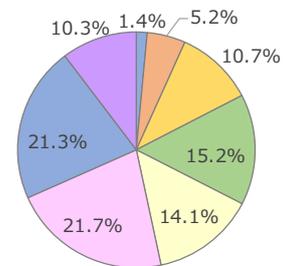
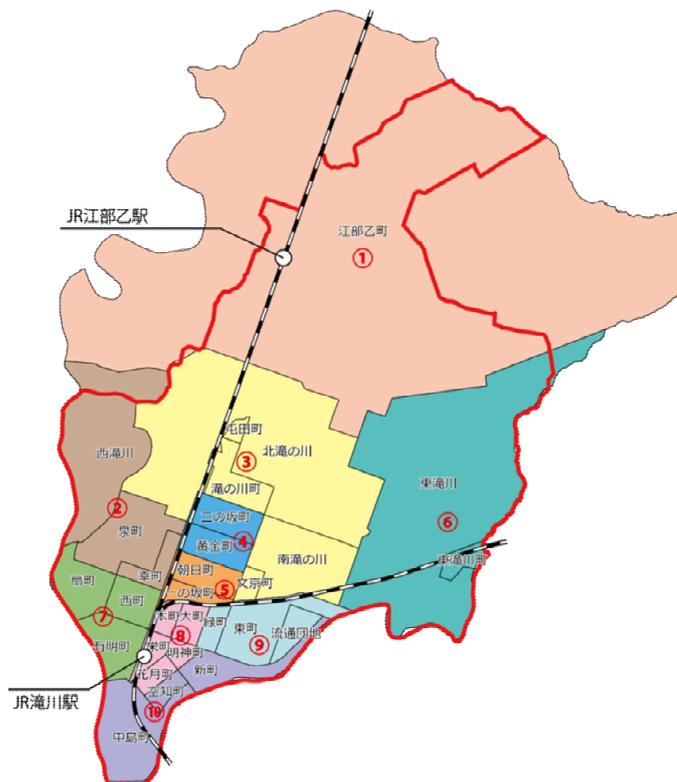


図 年代別の回答者数

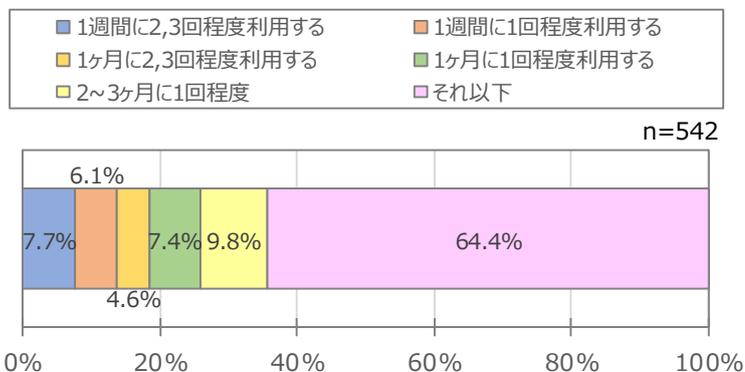


地区	字	回答数	地域全体
①	江部乙町	51	51
	泉町	26	53
②	幸町	27	
	西滝川	0	
③	文京町	0	40
	南滝の川	1	
	北滝の川	11	
	滝の川町	25	
	屯田町	3	
④	二の坂町	14	54
	黄金町	40	
⑤	朝日町	43	67
	一の坂町	24	
⑥	東滝川	6	12
	東滝川町	6	
⑦	西町	36	74
	有明町	10	
	藤町	28	
⑧	花月町	18	63
	栄町	10	
	大町	13	
	本町	17	
	明神町	5	
⑨	東町	47	69
	緑町	22	
	流通団地	0	
⑩	中島町	32	70
	空知町	14	
	新町	24	
合計		553	

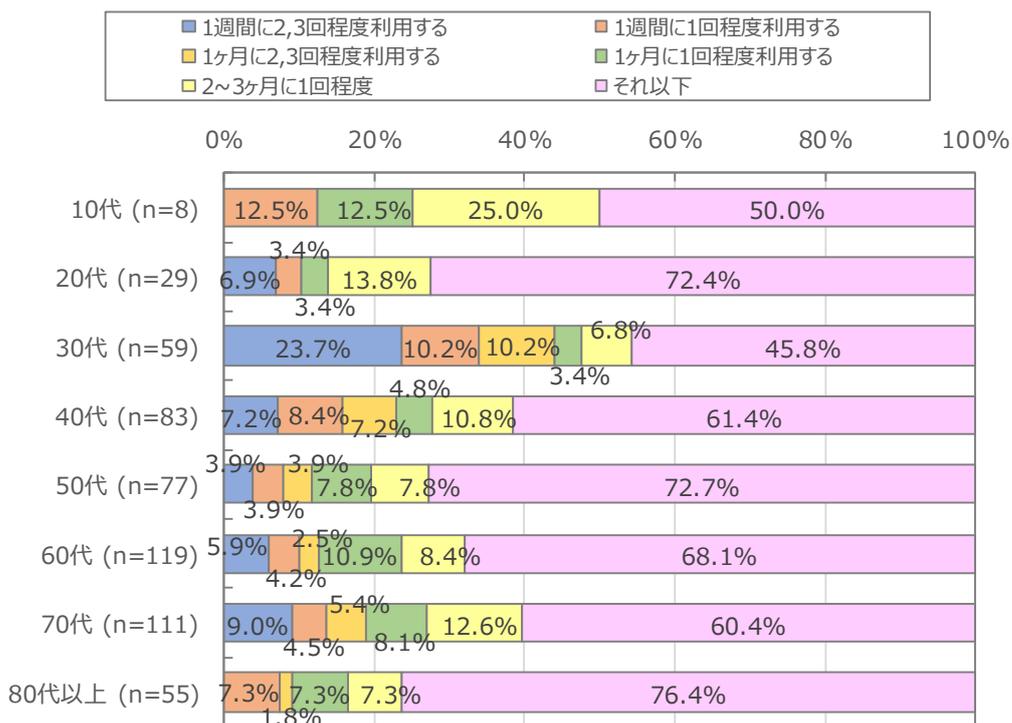
図 地区別の回答者数

＜市内の公園や緑地の利用頻度＞

・全体の7割以上が「2～3か月に1回程度」以下の利用にとどまっている。

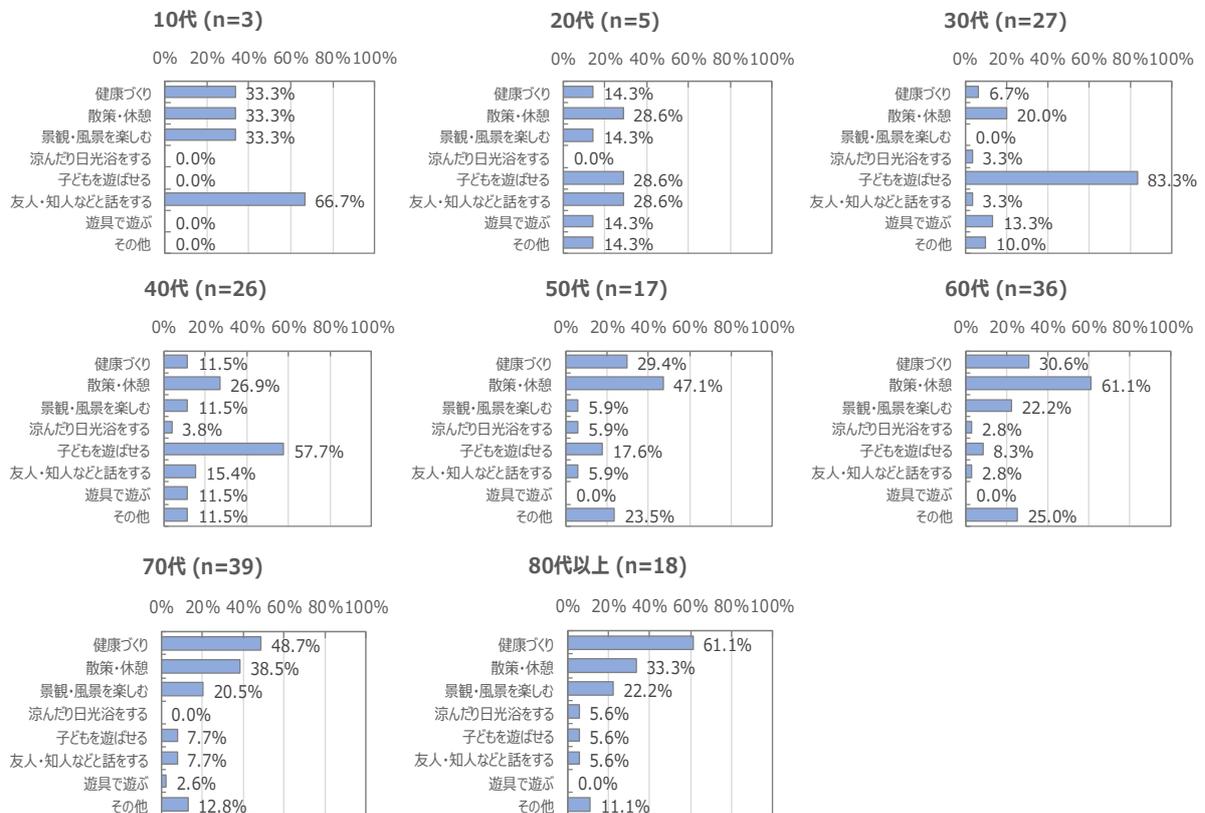


・30代を除き、半数以上が「2～3か月に1回程度」以下の頻度でしか公園を利用していない。



<公園・緑地の利用目的>

- ・ 10代～20代ではサンプルが少ないものの「友人・知人などと話しをする」の割合が高い。
- ・ 20代～40代の子育て世代では「子どもを遊ばせる」が高く、特に30代～40代で高い。
- ・ 50代以上では、「散策・休憩」の割合が高い。
- ・ 70代以上では、「健康づくり」の割合が高い。

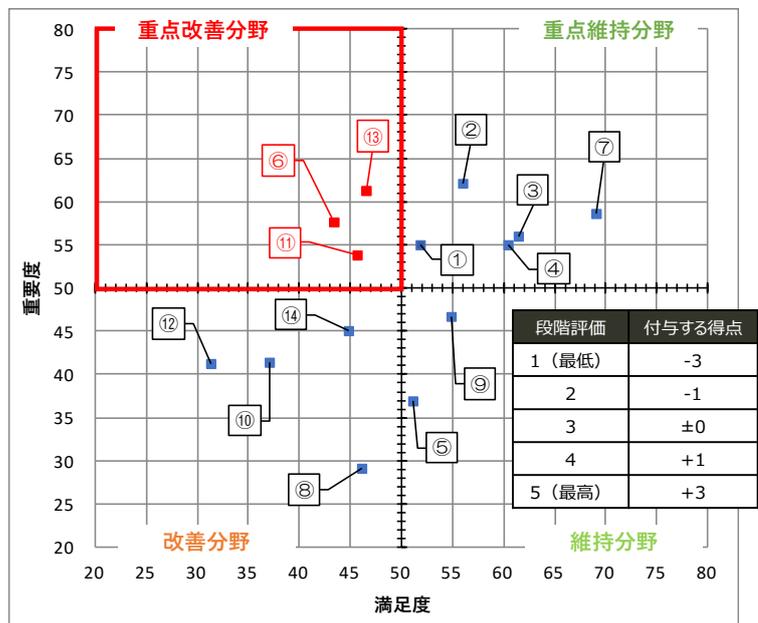


<緑づくりの満足度、重要度>

- ・ 各項目の中で「農地や丘陵地・河川」の緑に対する満足度が高くなっている。
- ・ 改善に必要な項目として、JR滝川駅前の緑化、市民が気軽に親しめる緑の空間づくり、次世代を担う子ども向けの環境教育や社会教育の推進が挙げられた。

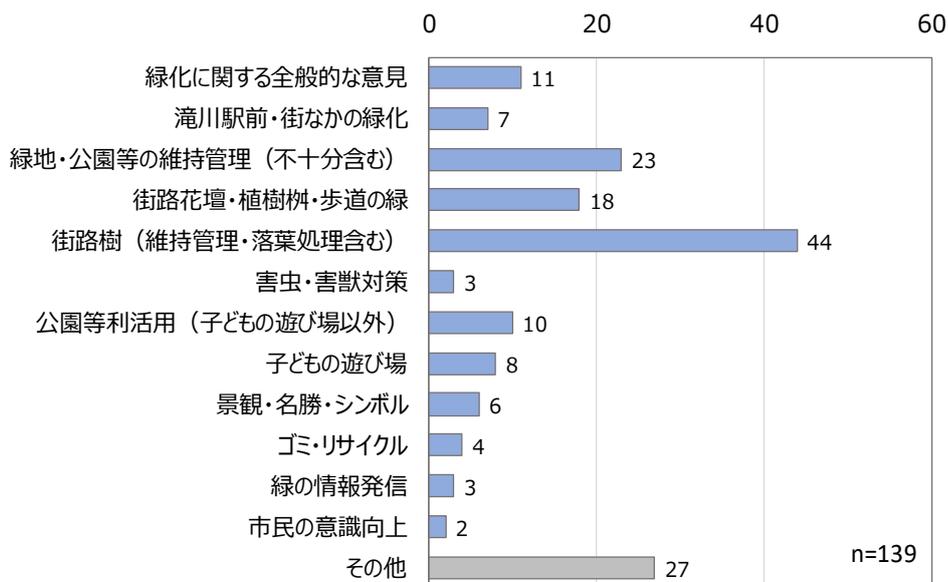
	満足度 (偏差値)	重要度 (偏差値)
① 道路の街路樹や歩道の花壇などが十分に整備されていますか？	51.8	54.9
② 身近な公園や緑道は十分に整備されていますか？	56.0	62.1
③ 市内を流れる河川の河川敷などの緑は十分整備されていますか？	61.5	56.0
④ 学校、市庁舎、公営住宅などの敷地内の緑化は十分ですか？	60.5	55.0
⑤ 多様な動植物が生息する森づくりが行われていますか？	37.1	41.4
⑥ JR滝川駅周辺の景観に配慮した緑化は十分ですか？	43.4	57.7
⑦ 市内の広大な農地や丘陵地は美しい景観に保たれていますか？	69.1	58.6
⑧ 市内の工場や事務所の敷地内の緑化は十分ですか？	46.2	29.2
⑨ 貴重な樹木や景観上重要な樹林地が適切に保全されていますか？	54.8	46.7
⑩ 住宅や工業団地の開発に際して適切な緑の保全がされていますか？	51.1	36.9
⑪ 市内の森林や河川、田園などを活用した市民が気軽に緑に親しめる空間づくりがされていますか？	45.7	53.8
⑫ 緑化活動を推進するための情報提供が十分にありますか？	31.3	41.2
⑬ 次世代を担う子供たちに向けた自然体験会などの環境教育や環境意識を高めるための社会教育は充実していますか？	46.6	61.3
⑭ 市民参加型の緑化イベントなど、行政と市民が一体となった緑化推進のしくみが整っていますか？	44.9	45.1

『重点改善分野』
 ※ 重要度が高いにも関わらず満足度が低い項目
 (今後改善が必要)



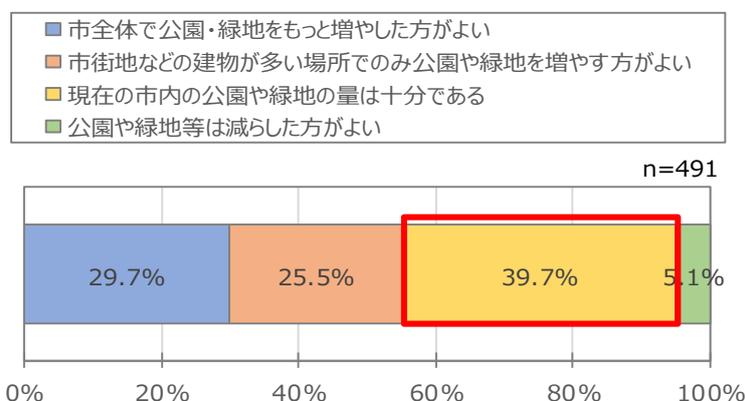
<特に不満に思っていることや課題>

- ・街路樹の維持管理が不十分で交通の妨げになっており、落葉時の葉の処理に苦慮している。
- ・歩道脇や花壇の草花が生長し、視界不良となる。
- ・公園の維持管理が不十分。
- ・身近に行ける公園が少ない。
- ・駅前や街中に緑が少ない。
- ・子どもが遊べる場所や公園がもっと整備されるべき。(砂川市のこどもの国のような)



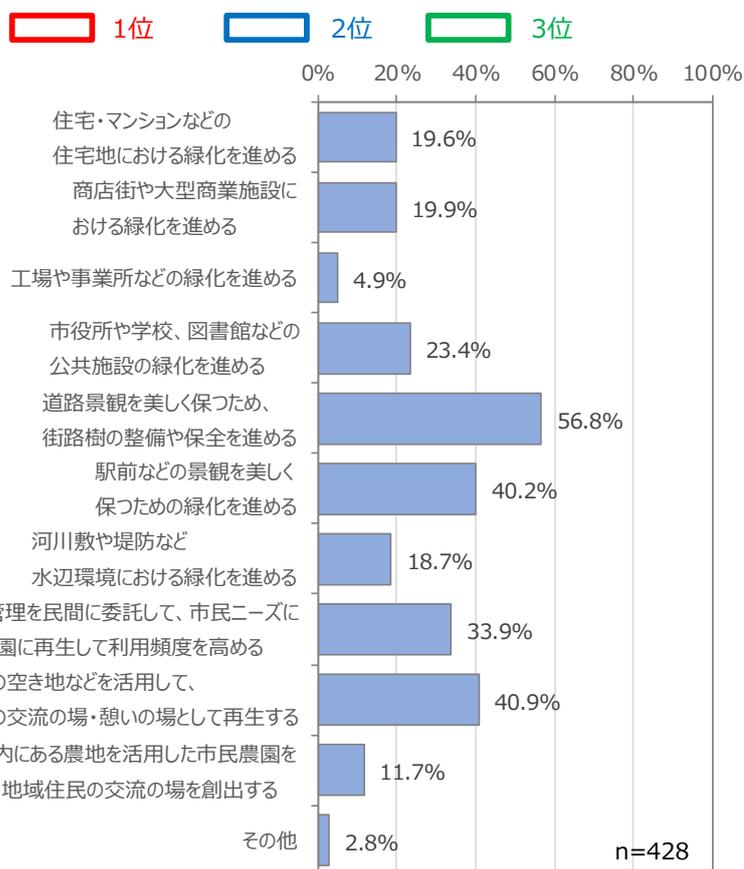
<今後の滝川市の緑（公園や緑地）をどうすべきか>

- ・「現在の市内の公園や緑地の量は十分」という意見が最も多く、続いて「公園・緑地を増やすべき」の順となっている。
- ・「公園・緑地を減らしていくべき」という意見は少なくなっている。

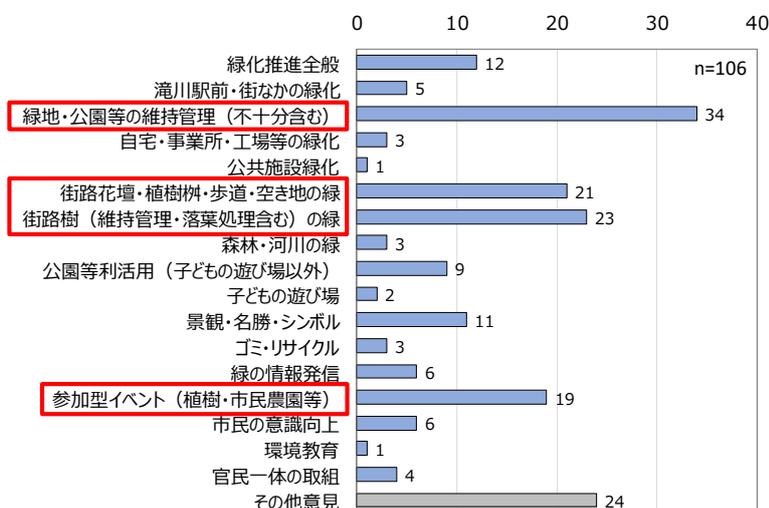


<市街地やまちの緑化を進めるうえで、重点的に進めるべきこと>

- ・「街路樹の整備・保全」が最も重点的に進めるべき意見となっている。
- ・「市街地の空き地を活用し、地域住民の交流の場・憩いの場として再生させる」意見が次が多くなっている。
- ・「駅前景観の保全・緑化推進」が望まれている。



<緑に対する意見、要望>

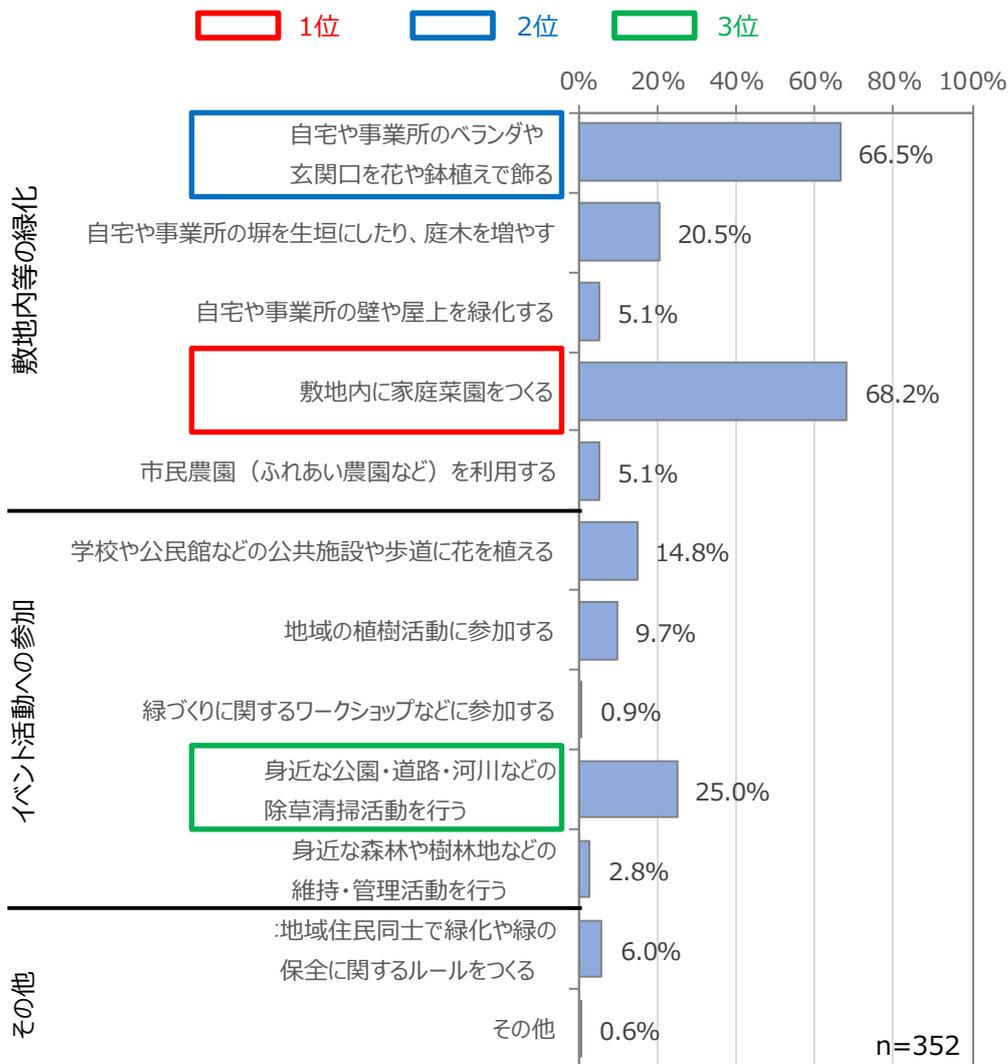


緑化に向けた具体的要望・アイデア

- ・サッカーなど**スポーツが出来る場**の創設
- ・**遊具を一か所に集約**して作る (新十津川町の児童館のような)
- ・**四季折々の花**を植えた公園
- ・家で増えすぎた**花を持ち寄って花壇**にする
- ・緑化に関する**道具の貸し出し制度**
- ・市外訪問者を対象とした**エコツアー**
- ・遊休 (農) 地の**市民農園への転用**
- ・市有**空き地の有効活用制度**創設
- ・景観保全のための**空家活用**
- ・**花や苗を購入できる店舗**のマップ作製
- ・北電公園での**桜の植樹**
- ・**家庭菜園・園芸教室**を開く

<現在、実践している「緑のまちづくり」活動>

- ・全体的に敷地内等の緑化を実践している意見が多く、特に「家庭菜園」や「ベランダ・玄関口の緑化（装飾）」といった比較的容易に取り組めるものが多い。
- ・イベントなどみんなで参加できるものについては「公園・道路・河川などの除草清掃活動」の参加が多い。



(2) 小学生アンケート（公園利用実態調査に係るアンケート調査）

- ・市内小学生の公園の利用実態や施設に対する意向を把握するため、アンケートを実施しました。

【実施内容】

実施時期：令和元年8月26日～9月3日

実施方法：調査員を配置し、市内6小学校（江部乙小、第一小、第二小、第三小、西小、東小）の児童569名から聞き取り（全校児童数1,753名の32.4%）

・設問項目

回答者属性（学校名、学年、性別）

Q1 よく遊んでいる公園

Q2 誰と公園に行くか

Q3 どのような遊びをするか

Q4 どのくらい行くか

Q5 ほかに好きな公園はあるか

Q6 遊びに行きたい、あったらいいなと思う遊具



図 アンケート調査の様子

・回答者属性

図 学校別の回答者数

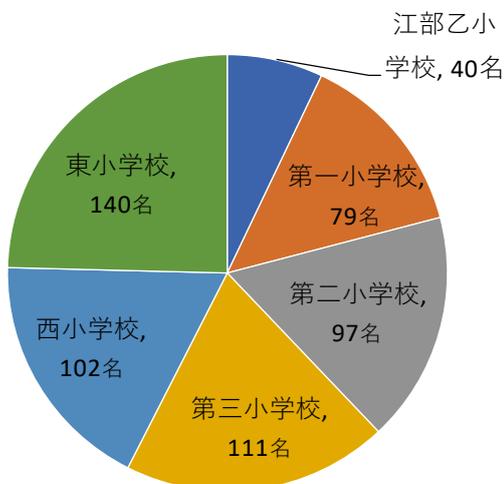


図 学年別の回答者数

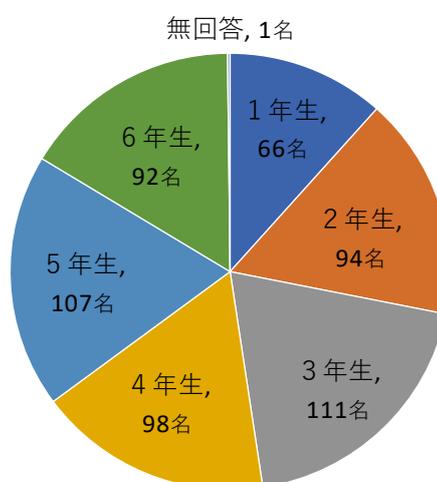


図 男女別の回答者数



<Q1 よく遊んでいる公園>

・小学校に近い身近な公園や、遊具や広場が整っている公園に人気が集まっている。

表 よく遊ぶ公園（上位10位・複数回答）

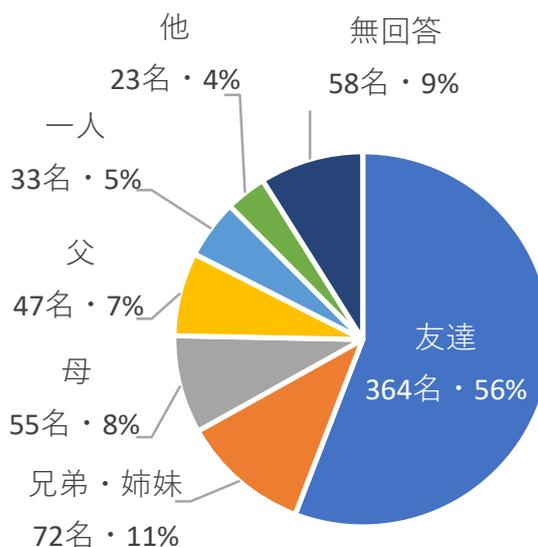
1位 さくら公園	71	11%
2位 なし	55	9%
3位 ルピナス公園	40	6%
4位 松庫公園	32	5%
5位 緑町公園	28	4%
6位 一の坂西公園	27	4%
7位 つつじ公園	26	4%
8位 とちのき公園	24	4%
滝の川公園	24	4%
10位 しらかば公園	23	4%

<Q2 誰と公園に行くか>

・「友達」(364名・56%) が最も多く、ついで「兄弟・姉妹」(72名・11%)、「母」(55名・8%)、「父」(47名・7%) となっている。

表 誰と行きますか（複数回答） N=652

友達	364	56%
兄弟・姉妹	72	11%
母	55	8%
父	47	7%
一人	33	5%
他	23	4%
無回答	58	9%

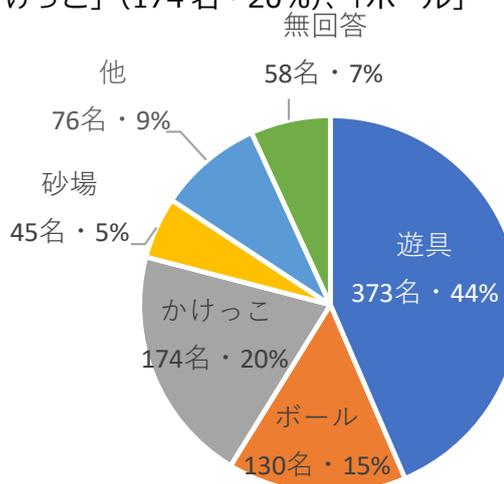


<Q3 どのような遊びをするか>

・「遊具」(373名・44%) が最も多く、ついで「かけっこ」(174名・20%)、「ボール」(130名・15%) となっている。

表 どのような遊びをするか（複数回答） N=856

遊具	373	44%
ボール	130	15%
かけっこ	174	20%
砂場	45	5%
他	76	9%
無回答	58	7%

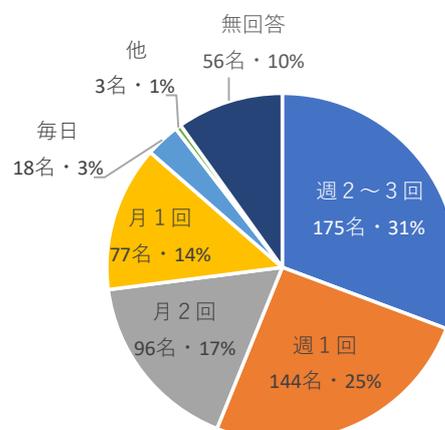


<Q4 どのくらい行くか>

・公園に行く頻度は「週2～3回」(175名・31%)が最も多く、ついで「週1回」(144名・25%)、「月2回」(96名・17%)、「月1回」(77名・14%)となっている。

表 どのくらい行くか N=569

週2～3回	175	31%
週1回	144	25%
月2回	96	17%
月1回	77	14%
毎日	18	3%
他	3	1%
無回答	56	10%



<Q5 ほかに好きな公園はあるか>

・「よく遊んでいる公園」に選ばれた公園のほか、比較的大きな公園や市外の公園も上位に位置している。

表 ほかに好きな公園はあるか

1位 なし	283	50%
2位 一の坂西公園	24	4%
北電公園	24	4%
4位 市以外の公園	20	4%
5位 さくら公園	19	3%
6位 中島せせらぎ公園	18	3%
7位 ルピナス公園	13	2%
8位 緑町公園	11	2%
9位 松庫公園	10	2%
つつじ公園	10	2%

<Q6 遊びに行きたい、あったらいいなと思う遊具>

・「アスレチック」(53名)が最も多く、ついで「ブランコ」(47名)、「長い滑り台」(40名)、「うんてい」(38名)、「ターザンロープ」(34名)、「ジャングルジム」(33名)、「シーソー」(32名)となっている。

表 遊びに行きたい、あったらいいなと思う遊具

アスレチック	53	10%
ブランコ	47	9%
長い滑り台	40	8%
うんてい	38	7%
ターザンロープ	34	7%
ジャングルジム	33	6%
シーソー	32	6%
水遊び場	25	5%
鉄棒	20	4%
その他	196	38%

公園事業に関するアンケート集計 569名 / 1,753名 (回答率: 32%)

江部乙小学校 40名 / 71名 (56%)	1年生 66名 / 266名 (25%)	男児 278名 (49%)
第一小学校 79名 / 226名 (35%)	2年生 94名 / 304名 (31%)	女児 289名 (51%)
第二小学校 97名 / 359名 (27%)	3年生 111名 / 294名 (38%)	無回答 2名
第三小学校 111名 / 345名 (32%)	4年生 98名 / 298名 (33%)	
西小学校 102名 / 263名 (39%)	5年生 107名 / 284名 (38%)	
東小学校 140名 / 489名 (29%)	6年生 92名 / 307名 (30%)	
	無回答 1名	

Q1 よく遊ぶ公園 (複数回答あり)

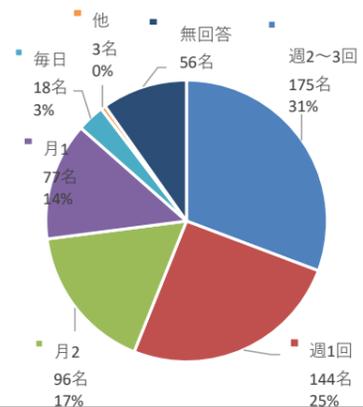
1位 さくら公園 71名 (12%)	27位 幸陵公園 7名 (1%)	53位 東町公園 0名
2位 なし 55名 (10%)	28位 旭光公園 6名 (1%)	西6丁目公園 0名
3位 ルピナス公園 40名 (7%)	かえで公園 6名 (1%)	大町南公園 0名
4位 松庫公園 32名 (6%)	らいらっく公園 6名 (1%)	東滝川公園 0名
5位 緑町公園 28名 (5%)	ぶらたなす公園 6名 (1%)	新町公園 0名
6位 一の坂西公園 27名 (5%)	黄金町公園 6名 (1%)	もみじ公園 0名
7位 つつじ公園 26名 (5%)	33位 平和公園 5名 (1%)	あかしあ公園 0名
8位 とちのき公園 24名 (4%)	中島公園 5名 (1%)	虹のかけ橋公園 0名
滝の川公園 24名 (4%)	滝川西公園 5名 (1%)	空知川緑地 0名
10位 しらかば公園 23名 (4%)	36位 西町フレンド公園 4名 (1%)	池の前水上公園 0名
11位 中島せせらぎ公園 19名 (3%)	江部乙公園 4名 (1%)	石狩徳富河川緑地 0名
12位 開西公園 16名 (3%)	38位 松本公園 3名 (1%)	滝川公園 0名
13位 見晴公園 15名 (3%)	花月公園 3名 (1%)	中央緑地 0名
一の坂公園 15名 (3%)	どんぐり公園 3名 (1%)	朝日児童遊園 0名
15位 江部乙とん田公園 14名 (2%)	三世代交流公園 3名 (1%)	ちびっこ児童遊園 0名
北辰団地公園 14名 (2%)	市以外の公園 3名 (1%)	東団地広場 0名
17位 西盛公園 12名 (2%)	43位 扇町公園 2名	西5丁目公園 0名
北電公園 12名 (2%)	はるにれ公園 2名	波止場公園 0名
みずほ児童遊園 12名 (2%)	こすもす公園 2名	空知川緑地 0名
20位 大町公園 11名 (2%)	滝新公園 2名	緑が丘公園 0名
銀河公園 11名 (2%)	こぶし公園 2名	水源公園 0名
江部乙中央児童公園 11名 (2%)	江部乙北地区会館 2名	石狩徳富河川緑地 0名
23位 泉町公園 9名 (2%)	49位 本町公園 1名	滝の川緑道 0名
こがね西公園 9名 (2%)	仲よし公園 1名	からまつ公園 0名
25位 文化公園 8名 (1%)	啓南公園 1名	栄児童遊園 0名
26位 こがね東公園 7名 (1%)	滝川東公園 1名	泉児童遊園 0名

Q2 誰と行きますか? (複数回答あり)

友達 364名 (56%)	(他の内訳)
兄弟・姉妹 72名 (11%)	・祖父: 7件
母 55名 (8%)	・いとこ: 6件
父 47名 (7%)	・祖母: 5件
一人 33名 (5%)	・ノリで: 3件
他 23名 (4%)	・近所の人
無回答 58名 (9%)	・誰か

Q4 どのくらい行きますか?

週2~3回 175名 (31%)	(他の内訳)
週1回 144名 (25%)	・夏休み
月2 96名 (17%)	・3カ月に1回
月1 77名 (14%)	・年に1回
毎日 18名 (3%)	
他 3名 (1%)	
無回答 56名 (10%)	



Q3 どのような遊びをしますか? (複数回答あり)

遊具 373名 (44%)	(他の内訳)
ボール 130名 (15%)	・鬼ごっこ: 25件
かけっこ 174名 (20%)	・ゲーム: 13件
砂場 45名 (5%)	・カードゲーム
他 76名 (9%)	・自転車: 11件
無回答 58名 (7%)	・おしゃべり: 6件

・野球: 5件	・バドミントン: 2件	・ラジオ体操	・全部
・かくれんぼ: 4件	・だるまさんがころんだ	・絵を描く	・サバゲー
・いろいろなごっこ 4件	・フリスビー	・缶蹴り	・宝探し
・キャッチボール: 3件	・はないちもんめ	・おすし	・水遊び
・ベンチ: 3件	・サッカー	・ダンス	

Q5 他に好きな公園は? (なし以外は回答のあった公園のみ) 該当のない公園 31件

1位 なし 283名 (50%)	17位 平和公園 6名 (1%)	33位 東滝川公園 2名
2位 一の坂西公園 24名 (4%)	大町公園 6名 (1%)	中島公園 2名
北電公園 24名 (4%)	しらかば公園 6名 (1%)	35位 泉町公園 1名
4位 市以外の公園 20名 (4%)	一の坂公園 6名 (1%)	東町公園 1名
5位 さくら公園 19名 (3%)	江部乙中央児童公園 6名 (1%)	幸陵公園 1名
6位 中島せせらぎ公園 18名 (3%)	22位 松本公園 5名 (1%)	啓南公園 1名
7位 ルピナス公園 13名 (2%)	旭光公園 5名 (1%)	扇町公園 1名
8位 緑町公園 11名 (2%)	はるにれ公園 5名 (1%)	ぶらたなす公園 1名
9位 松庫公園 10名 (2%)	北辰団地公園 5名 (1%)	どんぐり公園 1名
つつじ公園 10名 (2%)	26位 見晴公園 4名 (1%)	黄金町公園 1名
11位 とちのき公園 9名 (2%)	銀河公園 4名 (1%)	もみじ公園 1名
滝の川公園 9名 (2%)	滝川西公園 4名 (1%)	こぶし公園 1名
みずほ児童遊園 9名 (2%)	29位 開西公園 3名 (1%)	江部乙とん田公園 1名
14位 文化公園 8名 (1%)	滝川東公園 3名 (1%)	三世代交流公園 1名
15位 花月公園 7名 (1%)	31位 本町公園 2名	
西盛公園 7名 (1%)	こがね東公園 2名	

滝川市以外の好きな公園

- ・秩父別のチックル公園: 4件
- ・芦別市の栄町児童公園: 4名
- ・新十津川の公園: 2件
- ・雨竜の公園: 2件
- ・岩見沢の公園
- ・あすなる公園
- ・バッタ公園
- ・みみずく公園
- ・ウララ公園
- ・妹背牛の公園
- ・うらら公園

公園ではないよく遊ぶ好きな場所

- ・学校のグラウンドや校庭: 12件
- ・砂川市のこどもの国: 4件
- ・新十津川交流センター: 2件
- ・江部乙北地区会館: 2件
- ・新十津川の河川敷
- ・金毘羅神社
- ・丸加高原

よく行く公園で、直してほしいところ

- ・ブランコの持ち手を金属以外にして (かえで公園)
- ・トイレを備えてほしい (しらかば公園、西町フレンド公園、さくら公園)

Q6 遊びに行きたくなくなるような、あったら良いと思う遊具は? (複数回答・無回答もあり)

・アスレチック 53件	・登り棒 13件	・砂場 4件	・パラソル付きテーブル 2件
・ブランコ 47件	・ボルダリング 13件	・ハンモック 4件	・ゴミ箱 2件
・長い滑り台 40件	・ウォータースライダー 10件	・広場 3件	・ゴーカート 2件
・うんてい 38件	・回転ジャングルジム 8件	・ネット 3件	・タコ型の滑り台 1件
・ターザンロープ 34件	・大きなアスレチック 7件	・ドーム 3件	・バドミントンのコート 1件
・ジャングルジム 33件	・廻旋塔 7件	・雪山 3件	・テニスコート 1件
・シーソー 32件	・サッカーゴール 6件	・野球場 3件	・自転車コース 1件
・水遊び場 25件	・大きなブランコ 5件	・大きなシーソー 2件	・スケボー 1件
・鉄棒 20件	・バスケットゴール 5件	・バランス遊具 2件	・タイヤ 1件
・滑り台 15件	・ローラー滑り台 5件	・どかん 2件	・洞窟 1件
・トランポリン 15件	・コンビネーション遊具 5件	・乗り物 2件	・お花 1件
・プール 14件	・長いうんてい 5件	・幅跳びのレーン 2件	・パルクール 1件
・ジェットコースター 14件	・水飲み場 5件	・テーブル 2件	・大きな木 1件

資料編 3 滝川市 緑に関する市民懇談会開催結果

資料編3 滝川市 緑に関する市民懇談会開催結果

滝川市

滝川市〔緑に関する市民懇談会〕開催結果報告

◆ 開催目的

滝川市が新たな「緑の基本計画」を策定し施策の基本方向を打ち出すにあたり、市民の日ごろの緑に対する問題意識やこれからの緑づくり・緑の利用に関する考え方などを伺い、計画策定の参考とすることを目的とする。

◆ 開催概要

【日 時】平成29年11月10日(金)18:00～20:00

【場 所】滝川市役所6階

【参加人数】市内各団体及び公募より12名が参加。

【経過等】開会后、事務局より緑の現状及び現行緑の基本計画の検証の説明、市民アンケート調査結果の説明の後、A、B、Cの3グループに分かれて討議。

主に「街路樹や公共施設の植栽」「都市公園」「森林・丘陵地や田園地域」を対象に意見をいただいた。

懇談会のようす



開会・あいさつ



グループ討議



発表

【参加者】

グループ	氏名	所属
A	松尾 朋哉	滝川青年会議所
	船奥 保	日本で最も美しい村江部乙協議会
	峯村 征秀	滝川市PTA連合会
	椿坂 幸夫	滝川市社会福祉協議会
B	近藤 正孝	滝川鈴蘭中央商店街振興組合
	窪之内 美知代	日本で最も美しい村江部乙協議会
	米田 裕紀	東滝川連合町内会
	田中 悦子	一般参加(広報)
C	坂本 善康	たきかわ観光協会
	東元 勝己	日本で最も美しい村江部乙協議会
	渡辺 龍之	東滝川連合町内会
	宮下 厚子	一般参加(広報)

I 討議結果

【Aグループの意見】

■Aグループ

視察対象	分科タイトル	内容
①	身近な公園	町内会や公園管理一歩を使うのも地域で責任をもってやれないか
①	身近な公園	公園で大、使えない一歩では一応認めているが、市民に伝わっていない
①	身近な公園	H20→遊具老朽化、ゆりかごブランコ消えた(危険)遊具が面白くなってきた?
①	身近な公園	身近な公園、遊具が壊れればあまり使わない?
①	身近な公園	イベントで来る公園がない、駐車して来てる人が多い。
①	身近な公園	町内会費を使って積極→防犯灯に使わない
①	身近な公園	身近な公園→遊覧船・広場として
①	身近な公園	公園の防犯、該当は町内会の管理、雑いところもある。
①	身近な公園	一律に管理するのではなく、地域の理解が必要
①	身近な公園	今の町内会に合った管理のやり方、遊具の事故も昔からあった。
①	身近な公園	使う人の意識(集う・スポーツ)目的…
①	身近な公園	大町コミセン横の広場、使われないが…
①	身近な公園	児童公園→平和公園、イベントがなくなった。使えば愛着。“使わせていただいている”
①	人気のある公園	目的・テーマが市民に理解される。滝川公園の緑水、きちんと運営しては。
①	人気のある公園	ふるさと公園(新十津川)をよく使う→池の川公園ももっと使えるように。
①	人気のある公園	集つば…人が集まる。木の涼れ、雨天でも寄って行く。人が集まる→積極的な投資を戦略的に。遊具サッカーフィールド。大会の誘致多い。経済効果、お金のかけ方。ターゲットも取って。
①	人気のある公園	観光の一歩を離れず→個性・テーマを活かす。商業ベース。
①	地域の自治力が大事	本州では地元の人が公園を管理→まいいい。自分たちで。
①	地域の自治力が大事	江部乙、自治力言っている。東滝川も学ぶべき。
①	地域の自治力が大事	ボランティアの育成
①	江部乙は手本	昔、ゴミだらけだった→清掃活動から初めて活動が広がっていく
①	江部乙は手本	葉の花、田園地帯、地域の人の活動に学ぶべき。
①	御路樹にもメリハリ	御路樹の管理、運営はきちんと管理されているが、滝川のは悪くて子供が出てきて危険。
①	御路樹にもメリハリ	桜並木、良いが、落ち葉どうする→小学校で悪臭集め?
①	御路樹にもメリハリ	経路ができるイチョウ並木は大変にすべし。
①	御路樹にもメリハリ	ただ、ゆくり景観を壊すはげすむのか?
①	御路樹にもメリハリ	プラタナス、切ったとき音響あった→30~40年たつて音もすげえ? 学校のエリアとか、残すところは取ってほしい。昔、国産12号にプラタナがあった。今はない。
①	御路樹にもメリハリ	桜の木、時期に葉が落ちないのはなぜ?→管理が難しい。虫がつく。他の時期に運送がられる。
①	その他	皆さんの協力があれば…(桜の管理)
①	その他	滝川の公園は68箇所。
①	その他	地権者どうにかかわるかが大事。
①	その他	目的別の公園(テーマ)。せせらぎ公園、一の坂西公園、特色・人気ある。
①	その他	子育て親→小さな公園(遊覧船・コミュニティ)と大きな公園(市民の憩い)の後継者
①	その他	日陰のいのを管理する
①	その他	使うからこそ愛着、使われない→荒れ放題
①	その他	子供が加しい(若い層)ゾーリングも加しい公園使えない。金まで同じ施設で良いのか?
①	その他	今は誰が管理しているか→公園の役割果たしていない。文化公園以外は、業種は誰かしている。
①	その他	・ホウシンの森(江部乙)のようなところゾーリングの桜、きちんと管理していれば
①	その他	丸高高島の桜などは景色の良いところある
①	その他	イチョウの落葉、地域と市で管理
①	その他	ボプラの木、道の駅の前の樹木の危険。緑の中の風景にもあった。

解決の方向性
公園の管理・整備 →テーマに合わせて

※3つの視点・対象へ①:遊覧の遊覧船や緑化(花)、公共施設等の緑化について ②:都市公園について ③:市街地周辺の森林・丘陵地や田園地域の緑について

Aグループ・討議



発表



I 討議結果

[Bグループの意見]

■Bグループ

視点・対象	分類タイトル	内容	解決の方向性
①	街路樹など	・東二線：イチョウ並木きれいだけど落葉大変ノ、プラタナス：葉が上がる ・ポプラ：根が上がる	→植樹が重要
①	街路樹など	・プラタナス：幹を止められないか。ノ、街路樹：外刈される	
①	街路樹など	・道沿いの花：みんなバラバラ ・東一線：桜植えたけど廃行→放ってある→伐って花にしたらよいかど管理が…	→植樹が重要
③	(現状) 参加	・江部乙駅：オープンガーデンノ、緑が少ないと思う(街中) ・葉(プラタナス)ノ、街路樹特定されてしまう。	
③	(現状) 参加	・オープンガーデン(400人/2日間)ノ、自宅をきれいにしている方→江部乙には多い ・地団を作っている(オープンガーデン)	→発展・連携
①	(現状) 参加	・緑地の草刈りノ、葉をされている。ノ、公園ノ学校ノ緑地。駅前ノ花種を行っている。	
③	(現状) 参加	・美しい村協議会ノ、江部乙駅の花壇整備 ・リンゴの木ノ、オープンガーデン(5件)→江部乙地域だけ自主的に	→発展・連携
①	(現状) 参加	・花種をしている老人クラブある→生きがい事業	
②	(現状) 参加	・環境保全組合(農村) ・街中の草刈りは一部 ・老人クラブで草刈りしている(一機と燃料は市で出ている)	→発展・連携
②	(現状) 参加	・「ホビの会」→花の好きな人たち ・環境保全組合→国の補助：環境の事業を地域のひとたちと草刈り、花植(コスモス)	
①	課題◎	・緑があってもだれが管理するのか? ・公園の花は申請でもらうことできる(種類数まちまち)	→発展・連携
①	課題◎	・駅前緑が少ない(美川駅)ノ、緑が少ない(ベンチあるのに)	
③	田圃の緑	・せっかくプラタナスやるならポツポツではなく一面に広げようしてほしい。→やりっぱなしでダメ	→発展・連携
③	田圃の緑	・リンゴ園の防風林がダメになっている。どうするか。 ・美しい村(リンゴ園、葉の花)ノ、道の駅も建物だけ	
③	田圃の緑	・信習館までの道、コスモス多かつた→お祭りやっていただけと今はやっていない。 ・コスモス、準備は形腐になる。 ・葉の花プラタナスはうまいかない。→「イエロープロジェクト実行委員会」	→良いところあるが、保全を考える必要がある。活かしたい。
③	田圃の緑	・道有地の検証がある→良いところ(人は入っていない) ・江部乙中学校近くで植えている。	
②	今後の緑	・高齢化でできなくなってきた。→どうするか。 ・健康寿命延伸のための公園づくりをしてほしい。(冬の雪捨てだけ)	→気懸けに行ける場所が必要。メリハリ付けても良い。
②	今後の緑	・公園のメリハリが大事。使わなくなったら閉鎖しても。(江部乙公園の野球場使っていない)	
③	今後の緑	・緑の量はあっても、管理されていない。 ・緑の中を歩くようなところ(原道)はない。→桜並木があるとよい(近くにニコニコヒバの並木ある)(良) ・フットパス→ニート工場跡地	

※3つの視点・対象～ ①：道路の両側や緑化(花)、公共施設等の緑地について ②：都市公園について ③：市街地周囲の森林・丘陵地や田圃地域の緑について

Bグループ・討議



発表



I 討議結果

【Cグループの意見】

■Cグループ

視点・対象	分類タイトル	内容
①	街路樹	特に高齢者は個人では処理できない（住んでいる人、見ている人のギャップ）
①	街路樹	駅前公園→草刈り、老人クラブ/プラタナス、イチョウ
①	街路樹	植樹。プラタナス→思い入れが強い→秋（見た目、落ち葉）処理
②	マナー利用	規制。使いにくさ（禁止事項）→緩和も含めれば可能性広がる
②	利用	遊具、フィットネスの設置など
②	利用	大人が使えるものを設置
②	利用	健康づくりとかの目的に
②	利用	駐車場利用の検討
②	利用	歴史ある滝川公園の再生利用+河川緑地の活用
②	利用	滝の川公園+運動公園→更新→組み合わせた計画
②	利用	浜とともに。文化センター・美術館 公園
②	維持・管理	ボランティア→定期的な呼び（町内会活動）
②	維持・管理	大規模→民間に委託
②	維持・管理	小規模→声かけ（地域）→市民主導で維持管理（東滝川）
②	その他	身近な公園、子供に大切。
②	その他	イチョウのどんぐり（教育）→身近な緑（幸せ）
③	景観保全・田園	一の坂から東滝川→段差（段丘）→市民も少ない→教育
③	景観保全・田園	田んぼの景観整備→整備された中で変わる（東滝川）→富良野高原に
③	栗金林	連続性を重視→保全林等が少ない→保全担保なるか？自衛隊の演習地（位置づけ）を利用→適有地の活用（白地）→（環境教育・観光→一般市民）→付随的な取組と運動→地域振興
③	自然林	散策の森→自然観察の森の保全
③	自然林	市に身かせている（管理）→できてない。希少生物の生活
③	自然林	草の種類が分からない
③	自然林	赤人も玄人も楽しめる森（さっかくだから）
③	生物多様性	地域おこし協力隊の協力→丸加高原ボランティア。ピオトープの考え（はたる）
③	生物多様性	丸加高原の（景観的）活用。キャンプ場

解決の方向性
・道路の改良事業一何を確認するか決める→行政側が決める
・樹木なくて花壇にする。植樹券

※3つの視点・対象へ ①：道路の街路樹や緑化樹（花）、公共施設等の緑地について ②：都市公園について ③：市街地周辺の森林・丘陵地や田園地域の緑について

Cグループ・討議



発表



8

II 意見まとめ

①街路樹・公共施設の緑

- ・生長すぎた、落ち葉の多い街路樹の管理の問題
- ⇒管理のメリハリ付け(樹種の選定、植樹樹の変更など)
- ⇒花植え、草刈活動との連携
- ・駅前の緑が少ない

②都市公園

- ・大人や高齢者も使える公園に(健康増進等)
- ・場所によって管理を民間や地域に任せる
- ・一律に管理するのではなく、特色や役割、利用状況によってメリハリ付け

③森林・丘陵地や田園

- ・リンゴ園や菜の花、桜並木、丸加高原など良いところが多い
- ⇒保全と有効な活用(散策・環境学習、気軽に行ける場所)

9

資料編 緑の現況等説明資料

滝川市の緑の現況について

滝川市緑の基本計画 市民懇談会資料

1. 緑の基本計画とは？
2. 都市の中の様々な緑
3. 現行の緑の基本計画のあらましと検証
4. 緑に対する市民の意識・意向は？
5. これから求められる“緑づくり”
6. まとめと今日の議論の論点

1. 緑の基本計画とは？

都市緑地法に基づき、住民に最も身近な地方自治体(滝川市)が、この都市の「緑」を将来に向けて保全し、緑化をさらに推進していくための施策などを定めたもの

- 計画は、緑に関する将来の望ましい姿(将来像)、将来像を実現するための「緑の創造」、「緑の保全」、「緑の活用」、「緑文化の普及」などについての市の施策の方針などで構成され、緑豊かなまちづくりを総合的・計画的に進めるための指針となります。

今が見直しの時期です。

- 昭和63年度「滝川市緑のマスタープラン」策定
- 平成8年度「滝川市地域緑化推進計画書」策定
- 平成13年度「滝川市緑の基本計画」を策定

↓

- 計画策定から十数年経過
- その間に社会経済情勢の変化

↓

新たな緑の基本計画へ見直し

2. 都市の中の様々な緑

(1) 緑の様々な機能

- ① 環境保全
 - 防風防砂、土砂災害防止
 - 都市熱をクールダウン
 - 生物多様性の確保
- ② レクリエーション
 - 散歩、ジョギング、サイクリング
 - 憩いの場、交流の場
 - 芸術的価値、教育の場
- ③ 防災
 - 避難場所の確保
 - 防災訓練の場
 - 防災意識の醸成
- ④ 景観構成
 - 景観の形成
 - 景観の維持・向上
 - 景観の保全

資料は緑の基本計画ハンドブック

資料編 緑の現況等説明資料

(2) 様々な「緑地」の種類

緑の基本計画の対象範囲は、都市の緑地を狭い観点から主に都市計画区域内となります。ですが、それぞれの緑の役割や機能を考えるとき、外の広域的な森林・河川の緑地を考慮することも重要です。

- 計画が対象とする都市の緑は公園、道路や公共施設の植栽地、民間企業や社寺等敷地内の樹林地、法律で守られている森林や農地なども含まれます。
- なお、計画の中では都市の緑を「緑地」と表現しており、緑地には以下の種類があります。

(3) 滝川市の様々な緑

市北部 (江部乙、丸加高原)

市南部 (滝川市街、東滝川)

資料編 緑の現況等説明資料

3. 現行の緑の基本計画のあらましと検証

- 緑のもつ様々な機能(役割)に応じ、市内にある緑を抽出
- 将来の緑のあるべき姿(将来像)を設定し、それを実現するための目標・方針・施策を設定

<4つの施策の柱>

- 緑の創造
- 緑の保全
- 緑の活用
- 緑文化の普及

個別の取り組みを体系的に整理

【緑の充足状況①:緑化の目標の達成状況】

行政区域内人口一人当たりの都市公園面積を約1.3倍へ

計画期間に、石狩徳富河川緑地、のかけ橋公園、平和公園を整備

策定時 平成13年(2000年) 約50㎡

目標年度 平成22年(2009年) 約63㎡

平成28年(2016年) 約69㎡ 達成

	策定時 平成13年 (H13)	5年後 (H17)	10年後 (H22)	現在 (H27)	目標年度 (H32)
行政区域内目標人口 (国勢人口)	47,395人	48,567人	50,000人	50,000人	50,000人
都市計画区域総人口	48,658人	47,040人	47,098人	40,898人	49,218人
都市計画公園及び都市公園	736,748㎡	766,898㎡	784,098㎡	285,078㎡ (計画数:164,824㎡)	379,748㎡
行政区域内一人当たりの都市公園等面積	49.95㎡	54.77㎡	56.82㎡	計画値→769.19㎡ 実績値→188.57㎡	6.26㎡

【緑の充足状況②:緑化の目標の達成状況】

将来市街地の緑地面積を約1.20倍へ

策定時 平成13年(2000年) 約77ha

平成22年(2009年) 約93ha

平成28年(2016年) 約208ha 達成

※用途地域内もしくはDIO地区内の公園面積

<計画期間に確保された緑地>

都市公園: 石狩徳富河川緑地、一の坂西公園、虹のかけ橋公園、平和公園、道の川緑道など +131ha

公共施設緑地: 滝川市立病院、花月保育所、教育支援センター・文京台ソフトボール場、中高年齢労働福祉センター +2.1ha

※補填部分の面積計測

都市公園面積の大幅な増加は、石狩徳富河川緑地の開設によるものです。

資料編 緑の現況等説明資料

【市街地の状況】

人口減少に伴い、市街地内の人口密度が高いエリア(人口集中地区)も狭くなり、エリア内の人口も減少が続いています。

	面積	人口
平成17年	11.03 km ²	33,564人
平成22年	11.02 km ²	31,469人
平成27年	10.67 km ²	28,972人

資料:各年国勢調査

【現行計画の施策に基づく、様々な取り組みの展開(1)】

緑の創造

- 公園の整備:石狩徳富河川緑地、一の坂西公園、虹のかけ橋公園、平和公園などの整備
- 駅周辺地区の緑化:江部乙駅前の花壇整備 など
- 森林の整備:市民植樹祭の開催

緑の保全

- 開発の規制と併増:用途地域外に特別用途制限地域を指定(H25) 一田園地域の保全など
- 景観上優れた、地域のシンボルとなる場所の緑の保全:文化財指定建物周辺の樹林地、記念碑等周辺の樹林地の維持管理 など

【現行計画の施策に基づく、様々な取り組みの展開(2)】

緑の活用

森林と親しむ:丸加高原でのウォーキング、フラットバス など

田園と親しむ:市民農園・家庭菜園の貸し出し、たきかきわ 菜の花まつりの開催 など

川と親しむ:市民探鳥会・水鳥観察会、マリンスポーツ体験、グライダー体験 など

緑文化の普及

オープンガーデン、市民植樹祭、緑化樹等配布事業、コスモスの種配布、公園清掃週間(春の公園清掃ご協力のお願ひ)、市民園芸センター、アウダースポーツ事業、滝川緑の少年団、人権の花運動(滝川第一小学校)、学習体験講座(川コース)など

4. 緑に対する市民の意識・意向は?

緑の基本計画策定に関するアンケート調査

配布・回収状況(2017/9/11時点)

配布数	1,500票
回収数	564票
回収率	37.6%

設問項目

- 回答者属性 (問1~問6)
- 滝川市の緑の現状について (問7~問8)
- 将来の滝川市の緑について (問9~問11)
- 緑のまちづくりへの参加について (問12~問13)

5. これから求められる“緑づくり”

都市緑地法等の一部を改正する法律(平成29年6月15日施行)

様々な役割を担っている都市の緑空間を、民間の知恵や活力による取り組みがしながら、保全・活用していくための都市緑地法等の一部を改正する法律及び関係政省令が、6月15日に施行されました。
(一部については平成30年4月1日施行)

●都市緑地法等の一部を改正する法律(平成29年法律第28号)

背景・必要性

- ◆まちづくりに当たって、公園、広場、緑地、農地等のオープンスペースは多面的な機能を発揮(景観(視)、環境(雨水貯留、生物多様性)、防災(風速の抑制、避難)、体験・学習・交流、にぎわい)
- ◆緑豊かなまちづくりに向けず、さまざまな課題が顕在化
 - 量的課題 → 一人当たり公園面積が少ない地域が存在
 - 都市の高度化を促進してきた都市環境は、減少傾向
 - 質的課題 → 公園施設の老朽化の進行・経費の低下、公園空間の有効利用の悪化等
 - 一方、使い道が失われた空き地が増加
- ◆地方公共団体は、財政減、人材不足の制約等から新規整備と適切な施設更新整備に留意

※「経済財政運営と改革の基本方針2016」、「日本再興戦略2016(閣議決定)」において都市農林の維持、都市緑地の公園利用促進の一環等と認識するよう記載付す

都市公園の再生・活性化について(参考事例)

河川敷地を利用したオープンカフェ (隅田公園オープンカフェ)

資料: 隅田川ホームページ

都市公園の再生・活性化について(参考事例)

(1) 人々をつなぐ公園へ「地域の庭プロジェクト」

公園を核にした地域コミュニティ活動の推進、多様な市民参加の拡大、公園を楽しく活用する人材の育成などによって、公園の利用と愛着を高めます。

●「にぎわい広場」の制度創設

花や草花活動(「ボランティア花壇」「アボナー花壇」)などを展開し、地域の人々や事業者等をつなぐ、公園と地域の結びつきを推進します。

資料: 名古屋市公園緑地基本方針

都市公園の再生・活性化について(参考事例)

(3) 人と自然が共生する公園へ「自然の恵みプロジェクト」

自然の恵みを享受できる機会を広げるとともに、市民・事業者・行政による生物多様性に配慮した施設管理を推進していきます。

●自然の恵みを生かす活動の推進

公園ごとの自然の恵みを享受できる機会を広げ、自然と自然保全・育成する意識啓発への市民・事業者の理解と参加の拡大を図ります。

資料: 名古屋市公園緑地基本方針

都市公園の再生・活性化について(参考事例)

(2) 名古屋の誇りとなる公園へ「にぎわい広場プロジェクト」

イベント開催の機会に「にぎわい広場」を設け、施設維持とイベントなど、民間活力を發揮しやすい状況を整え、公園と多岐にわたる「にぎわい」を創出します。

●「にぎわい広場」の制度創設

公園としての公益性の確保に配慮しながら、民間活力によるイベント活性化を図るため、施設維持と利用ガイドラインの整備を進めます。

資料: 名古屋市公園緑地基本方針

都市公園の再生・活性化について(参考事例)

(4) 公園経営の原動力へ「民間活力導入プロジェクト」

民間事業者の事業参画、市民・事業者からの寄付やボランティア参画など、民間活力の導入によって、利用者満足度の高い公園サービスを提供します。

●民間活力による公園利用サービスの魅力アップ

- 幅広い施設管理の確保
- 民間ボランティア、登録ボランティア事業の展開

公園の魅力に誇りに育てていくため、市民・事業者の参画、支援を活用していくための仕組みづくり、制度の充実を進めていきます。

資料: 名古屋市公園緑地基本方針

滝川市でも...

滝川の財政も、人口減少とともに削減傾向にある一方で、公共施設の維持・更新費は増大することが懸念されます。

「滝川市公共施設等総合管理計画(滝川市公共施設マネジメント方針)」に定められる方針に基づき、アセットマネジメントを行うこととしています。

- 【基本方針1】公共施設の選択と集中
- 【基本方針2】公共施設の長寿命化
- 【基本方針3】官民連携の推進

公園や公共施設のオープンスペースについても、適切に維持管理していくことが求められます。

資料編 緑の現況等説明資料

6. まとめと今日の議論の論点

【整備量の乖離】

- ・H28年の県用面積ベースで、大宮市と郡市公園等面積のH21以降（6人の成人）を達成
- ・H28年の県用面積ベースで、市街地等郡市公園等面積のH21以降（約60%）を達成
- ・市民や企業、活動団体等により多様な緑づくりの場の拡大を模索

市民アンケート調査から

- ・緑の役割の充足している場所が多い
- ・緑の役割の不足している場所が多い
- ・緑の役割の不足している場所が多い
- ・緑の役割の不足している場所が多い
- ・緑の役割の不足している場所が多い

課題を解決するためのテーマ

- ・市全体及び市街地内の人口減少
- ・少子高齢化への対応
- ・行政のついで道
- ・緑や施設の経年変化（施設老朽化、樹木の成長等）

本日のワークショップで議論いただきたいのは...

緑地の目標は達成し総量では充足しつつある結果ですが、これから求められる緑づくりへの視点とこれらに市民がどうかわりをもっているのか

- ① 道路の街路樹や緑化樹(花)、公共施設等の植栽地について
- ② 都市公園について
- ③ 市街地周囲の森林・丘陵地や田園地域の緑について

左記の緑に対しそれぞれの立場からの現状の見解・情報や、今後の課題解決に向けたアイデアなどをお話し、提議をしたいと思います。

資料編 緑の現況等説明資料

緑の基本計画策定に関するアンケート調査 集計結果概要

- 配布・回収状況(2017/9/1時点)

配布数	1,500票
回収数	564票
回収率	37.6%

- 設問項目

 - I 回答者属性 (問1～問6)
 - II 滝川市の緑の現状について (問7～問8)
 - III 将来の滝川市の緑について (問9～問11)
 - IV 緑のまちづくりへの参加について (問12～問13)

I 回答者属性

【問2】年齢 [SA]

年齢	人数	割合
10代	10	1.8%
20代	102	18.1%
30代	184	32.6%
40代	176	31.2%
50代	102	18.1%
60代	102	18.1%
70代	102	18.1%
合計	564	100.0%

【問3】居住地区 (分析再区分)

60代以降、50代以上が全体の割合、10代、20代が回答者層に少ない。

II 滝川市の緑の現状について

【問6】市街地公園等緑地の利用状況 [SA]

利用状況	人数	割合
1. 緑地を利用していない	62	10.9%
2. 緑地を利用している	281	49.1%
3. 緑地を利用しているが、利用頻度が低い	221	39.0%
4. その他	10	1.8%
合計	564	100.0%

※全体的に6割以上「2～3回月に1回程度」以下で利用している。

【問7】性別分析

性別	人数	割合
1. 緑地を利用していない	22	3.9%
2. 緑地を利用している	148	26.2%
3. 緑地を利用しているが、利用頻度が低い	173	30.8%
4. その他	17	3.0%
合計	260	46.1%

※男性の方が「緑地」より「利用頻度が低い」。

【問6】年齢別分析

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
1. 緑地を利用していない	0	2	14	0	3	7	10	36
2. 緑地を利用している	1	1	68	7	33	33	4	127
3. 緑地を利用しているが、利用頻度が低い	0	0	68	46	38	13	4	169
4. その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	3	150	53	74	53	14	342

※30代以降、年別以上「2～3回月に1回程度」以下で利用している割合が増えている。

※60代以降、50代以上が全体の割合、10代、20代が回答者層に少ない。

【問7】性別分析

性別	人数	割合
1. 緑地を利用していない	10	3.8%
2. 緑地を利用している	102	38.9%
3. 緑地を利用しているが、利用頻度が低い	148	55.3%
4. その他	0	0.0%
合計	260	100.0%



【図13-1】緑に対する不満や意見、要望【FA】

滝川市の具体的な場所の緑に対する意見

- 放置されている公園の有効利用(滝川公園など)
- JR滝川駅前と街なかを緑できれいにしてほしい
- 丸加高原に季節の花を植えては
- 市立病院前のベンチは素敵だと思う
- もっと駅周辺や街中に市民が集える場所を整えるべき
- 北電公園の春の桜はきれい
- 江部乙の景観はすばらしい(菜の花の黄色)

アンケート結果の総括

【市民の公園利用状況】

- 利用頻度は全般的に低い
- 世代により、利用する目的に差がある

【現状施策で改善が必要な項目】

- JR滝川駅前の緑化、市民が気軽に親しめる緑の空間づくり
- 次世代を担う子ども向けの環境教育や社会教育の推進

【緑の情】

- 充足しているとの見方が強い

【今後の緑化で求められる方向性】

- 緑(街路樹や公園等)の適切な維持・管理
- 環境教育と緑に関する情報発信

【緑のまちづくり活動への参加】

- 現状は手の届く個人的な活動が主体
- 今後は、地域の緑樹や除草清掃活動などのイベントへの参加意欲が高い

ワークショップ(形式)とは

いろいろな立場・考えの人が集まり、一緒に作業することを通じて、お互いの意見を理解し合い、新たな発見や共有の方向性を見出す「体験型/参加型の会議」

ワークショップのルール

1. 思いついたことを発表し「ふせん」に書いて机の上の模造紙に貼りましょう。
2. 人の話は最後までよく聞きましょう。
3. 人の言ったことを批判しないようにしましょう。
4. 他の人が発言できるように、発言は短めにしましょう。
5. 話し合った結果を成果としてまとめましょう。
6. 気軽に楽しみましょう。

ねらい

- ・参加する皆さんの発表の機会を平等にし、多くの意見を集めます。
- ・ふせんに書き残すことで話し合いの内容を振り返って、さらに深まり発見させられます。
- ・模造紙上でまとめることで、話し合った内容を他の人たちにも伝えやすくなります。

ワークショップの進め方

1. A、B、Cの各テーブルに「進行役」がついて、討論の進行と意見のまとめをサポートします。
2. 意見の記録は「進行役」を中心に進めますが、ご自分で意見を記入しても構いません。
3. 発表の最初(1巡め)は、簡単な自己紹介と合わせ、滝川の緑づくり①～③について、日ごろどのように感じているかをお聞かせください。
4. 発表の2巡めでは、1巡めで出た内容を踏まえ、今後どのような取り組みをしてほしいか、ご意見、アイデアをお聞かせください。
5. まとめの際は似た意見をグループ分けしたり、まとめのタイトルをつけたりするのに協力をお願いします。
6. まとめた後の全体で発表するときの担当を、皆で決めます。

滝川市

滝川市 平成30年度〔緑に関する市民懇談会〕開催結果報告

◆ 開催目的

滝川市が新たな「緑の基本計画」を策定し具体的な施策を打ち出すにあたり、市民の日ごろの緑に対する問題意識からこれからの緑づくり・緑の施策展開に関する意見などを伺い、計画策定の参考とすることを目的とする。

◆ 開催概要

【日 時】 1回目：平成30年10月30日(火)18:00～20:00

2回目：平成30年11月6日(火)18:00～20:00

【場 所】 滝川市役所8階

【参加人数】 平成29年度参加者(市内各団体及び公募)より1回目・2回目共10名が参加。

【経過等】

<1回目>

現在検討中の基本計画素案の施策の中で、深掘して議論したテーマを抽出して2グループに分かれて議論

- 公園の統合・集約化について
- 残したい街路樹、緑に親しむ方策
- 緑による交流促進や活性化

<2回目>

全体討議とし検討中の施策のうち、1回目の情報も踏まえた事務局の施策案として

- 街路樹の重点管理路線
 - 市街地エリアごとの公園集約化
- について説明し、方向性や実現に向けた課題などについて討議

討議のテーマ

【1回目】グループ討議のテーマ

	討議テーマ (その1)	討議テーマ (その2)
都市公園 について	・統合・集約化 の考え方は 概ねよいか	・その他補足や留 意したい事項は あるか
街路樹・ 公共施設 緑地等に ついて	・将来に残した い街路樹・公 共施設の緑 は？	・市民が街路樹・公 共施設の緑に親し み、理解を深める ためにできる取り 組みは？
田園・森 林・河川 について	・地域の取り組 みで交流促 進や活性化 に結び付け たい場所の 緑は？	・交流促進や活性 化に結び付ける ために緑づくりと して必要なことは？

【2回目】全体討議のテーマ

- 事務局より、街路樹の維持管理、公園の集約化に関する施策展開の案を提示
- 市民の立場から見た実施の可能性、実施に向けての課題や留意点などを議論

○街路樹の重点管理路線

- ・市街地内で良好な街路樹景観が連続した、「東2号通」をシンボリックな街路樹路線として位置づけ、重点管理を行う施策案を提案

○市街地エリアごとの公園集約化

- ・市街地の各ブロックの街区公園で、保育園や福祉施設などと一体的に利用ができるような場所などに優先的に公園機能を集約する施策案を提案

懇談会のようす

【1回目（10/30）】



開会・あいさつ



グループ討議



発表

2

【2回目（11/6）】



全体討議



事務局あいさつ・閉会

3

【参加者】

氏名	所属	1回目のグループ分け
齊藤 真弘	滝川青年会議所	A
船奥 保	日本で最も美しい村江部乙協議会	A
榎本 拓真	滝川市PTA連合会	A
平川 泰之	滝川市PTA連合会	11/6(全体討議)参加
椿坂 幸夫	滝川市社会福祉協議会	A
窪之内 美知代	日本で最も美しい村江部乙協議会	B
米田 裕紀	東滝川連合町内会	B
田中 悦子	一般参加(広報)	B
坂本 善康	たきかわ観光協会	B
東元 勝己	日本で最も美しい村江部乙協議会	B
渡辺 龍之	東滝川連合町内会	11/6(全体討議)参加
宮下 厚子	一般参加(広報)	A

I 討議結果（1回目・10/30）

【Aグループの意見①】

テーマ・論点	個別意見	まとめ、ポイントとなる意見
● 将来に残したい街路樹・公共施設の緑は？	<p>将来に残したいみどり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館のみどりはとてもキレイ ・美術館のみどりはすくきれいなちゃん熱心に管理している人がいる！ →管理してくれる人を何か表彰してもいいんじゃないかと思うくらい ・北辰の森 養育会が中学生も巻き込んで管理している ・江部乙に向かうサクラ ウラ通り、きちんと管理できれば(花をつけるには数年かかるのでもう少しまつか！) → “誰かが熱心に管理している”街路樹・公共施設の緑については、総じて「良いみどり」だと思われる。 ・みどりを意識するのは春(さくら)、秋(紅葉)と時季が決まっています、それ以外の時期はあまり意識したことが無い。季節の移り変わりを感じるのも街路樹などのみどりの役割だと思う。 → 夏に関しては、ただ緑があるなあというくらいにしか思わない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の移り変わりを感じるのが緑の役割ではないか
● 市民が街路樹・公共施設の緑に親しみ、理解を深めるためにできる取り組みは？	<p>不思議に思っていること(理解できないこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丸ボウスになっている街路樹を見るとなぜこうなるのか？と思う 自身で感じている落ち葉の問題 ・イチョウ ケーシだけと管理が大変 大変の度合いは樹種によりますが(市民みんなが大変なわけではない) ・イチョウはこまると、マツ、サクラ、プラタナスはこまると思う ・プラタナスは2年に1度の剪定なので、落ち葉が出ることもある ⇒ 街路樹の落ち葉の問題については、樹種によって大変さが大きく異なるのではないかと。落ち葉を問題にしているのは、市民全員ではないだろう。 市員全員ではないだろう。 今後街路樹をどうするべきかについて ・切ってしまったあとではとしかえしがつかない ・生活にどっこんでいる木、シンボルになっている木、生活のじゃまになっていてもその土地に認められている木がある 切るべきではない ・市立病院の木切ってしまった ・平和公園の木 道路に出ているところでも切るべきか！ ・今の木は大事に、切ったらえしがつかなくなることをすべきではない。過去に切られてしまった事例→第1小学校の木 ・大きな街路樹は過去から引きつがれた財産 ・パリのシャンソンに歌われているような落ち葉だと管理が面倒であっても受け入れられるのでは ・「交通のジャマ」というのではなく、それも含めて、地域の環境・地域が認めたもの ⇒ 街路樹の撤去は慎重になるべきで、切ってからでは取り返しがつかない。その地域に認められるものになれば、多少生活に支障があっても善処はしないのではないかと。 ・街路樹で管理が行きとどかない場所は老木(枯木、病木、倒木等)になったもの(地域の協力を得て見極める)から優先的に撤去し、植え直さない ・管理できる場所は植え直す ⇒ 管理ができない場所であれば、植え直さなくてもいいが、健康な木を一気に撤去してしまうのではなく、順次寿命をむかえた木を撤去していきだんだん減らしていく方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・街路樹の落ち葉をすべての市民が問題視しているわけではない。 (市民の感じ方は立場により一通りでない) ・むしろ地域に育った樹木を大事にする考えも必要。 ・樹木や場所の状況を考えて管理していくことが必要。

【Aグループの意見②】

テーマ・論点	個別意見	まとめ・ポイントとなる意見
●親しみ理解を深めるためには	<ul style="list-style-type: none"> ・世話をすると木を好きになるはず ・街路樹の管理が人づくりにつながる ・平和公園のラジオ体操に参加するシニア層は、清掃などを自主的にしている⇒日頃の利用が参加する心をそだてる ・公園でお花見をするように街路樹でも何かしら催し(町内会の落ち葉拾いなど)をすれば、関わった人は管理も一生懸命するのでは ・街路樹の管理をとおして人づくり ・本来、人は木を求めている ・北海道では昔に“やっぺら”ことが当たり前で、自分たちでやる心を持って育てべき ・学校の行事、町内会行事地域活動⇒地域の落ち葉にあわせてみんな木を豊かにしようになる ・学校でも落ち葉ひろいを行事にする⇒子供の時に体験しておけば、落ち葉の清掃が苦にならなくなる(当たり前になる)のでは? ⇒ 利用されている緑は、利用している人がボランティアで管理してくれる。利用されていない緑は、利用されるようにしないと管理してくれない。何か関わりを持たせるような催しを行うなど工夫が必要ではないかとのこと。管理を過してみどりに関わったことがあれば、認められるようになるはず。昔ながらの管理をしたことが無い人が多いのではないかとのこと。 ・キレイだと人が集くる ⇒ 周辺のまちなみに風情が出る ・街路樹のキレイ場所、景に行きたくなる場所について情報があった方がいい ・良い街路樹のことをもっと知れないか 情報があれば ・SNSで共有して“おすすめの木”を紹介 ⇒ SNSの発信は特定の人に管理の負担がかかる⇒造川市のHPで気軽にあげて、紹介する。 ⇒ 景観として綺麗な街路樹は、地域外からも見に来るほどよいので、その情報をもっと紹介するべきとのこと。しかし、地域外の人がその維持に協力するかは疑問。 	<ul style="list-style-type: none"> ・街路樹と親しむため、まず“世話する”きっかけづくりが重要。 ・街路樹のきれいな場所、見に行きたくなる場所を紹介できるしくみづくりが必要。
●地域のまちづくりと緑づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・住んでいる人が地域の緑を認め、誇りを持つことが重要。江部乙の美しい村づくりの活動もこの考えから始まっている。 ・町がコンパクト ・防災強い ・災害があまり無い ・田圃/景観保全活動/田圃での水路や田の清掃は、田圃環境整備事業として農家が日頃やっている⇒農家はやっている江部乙以外の東滝川の田圃地域でも、これらの活動から地域の特色ある緑づくりに広げていけないうか。 ・地域清掃(江部乙) 江部乙駅前(国学院大学の学生も協力) ・江部乙駅前(駅前カフェ(国学院大学と連携)、リンゴの生産、オープンガーデン、フットパス)⇒自分の地域の資源を見つけ、活かすところから始まる ⇒ なぜやるのかをはっきりさせ、地域(自分)のみどりとして認められるようにすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・江部乙など地域住民が周りの田圃・緑の環境を保持する取組を広げるべき。 ・そのためには地域の環境を守るべき資源として認知することが必要
●駅前のみどり	<ul style="list-style-type: none"> ・高木の植栽ではなく、低木の木、生垣など植栽を工夫すれば手間はかからない ・駅前のみどり 小学生ではむずかしいのでは、商業高校や工業高校の高校生以上でないと駅前緑化の意義(大森名分)を理解できないのでは。 ・江部乙は無人駅を残すためという意味(大森名分)がある。 ・駅前広場のグラブがコンクリートに同化して目立たない⇒みどりが背景なら目立つかも ⇒ 滝川の駅、滝川の入り口など何かテーマや大森名分がはっきりしないと、どうしたらいいのか明確にならないのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前など顔となる空間では緑化や景観づくりの目的・テーマがはっきりしている方が取組やすいのでは

6

I 討議結果

【Bグループの意見】

テーマ・論点	個別意見	まとめ・ポイントとなる意見
●都市公園について	<ul style="list-style-type: none"> ・公園のトイレが使いたい。 ・小さい公園は雷が当たって壊れる⇒遊具壊れるくらい雷が入られる ・東滝川地区では市から委託を受けて老人会が管理している ・農村公園⇒遊具撤去した。現在は広場だけ ・東滝川地区⇒使いやすさを考えると自分の団地の近くに公園がある方がよい。 ・統合化・集約化 → 廃止した公園どうするのか? → 周辺の施設状況などを考えて検討しないといけない(たうらう機能の補完が必要) ・集約はOK 機能を確保できるように計画的に配置することが重要 ・また、学校や教会施設などの周りの環境や利用者特性を踏まえて適切に配置することが重要 ・公園を造る際に木を伐った。(雑木)⇒少し残してもよかったのでは... ・ホロクラ神社 → ケヤキがあって外部からも見にくくなる → 旧南産試験場 みどりある⇒カグヤコモリの生息地となっている ・滝川市街の公園はきれいになっているが、江部乙の公園はきれいになっていない... ・一の坂公園はよく使われている ・かつて町中にあった「江部乙公園」⇒「みずいろ公園」という名称になった。いつのまにか山の方に「江部乙公園」ができた → 高齢者にとっては春ながら健康遊具などがあると良い(山のほうはアクセスづらい) ・せせり池がある池が汚い。遊具が少ない(プランコは新しい) ・公園にあまり行かないのでどこにあるのかわからない。利用していない。 ・昔は盆踊りやイベントをしていたが近隣住民からの苦情で止めた。(みずいろ公園) ・山の方の「江部乙公園」は行かない。 ・まち中の公園(「みずいろ公園」など)は歴史もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園の集約化は良いと思うが周りの環境や利用者特性を踏まえて適切に配置するべき ・廃止した公園跡をどうするのか?課題
●街路樹・公共施設緑地について	<ul style="list-style-type: none"> ・街路樹の間引き、支障木伐採はやっていくべき ・管理が大変な街路樹を可能な限り残せるよう、植樹間隔を広げて樹木本数を減らすなどの対応をしてほしいか ・街路樹の刈り込みをどうするか(並木としてしっかり整備するところとそれ以外を分ける) ・管理をよくすればそれなりになると思う。ただし管理にお金かかる ・落葉は一時的なことである ・落葉のボランティアの配布はやっているが、落ち葉を詰める作業を誰がやるのか。 → 東滝川地区では一部老人会で踏け負っている ・旭川市神楽のプラタナス並木は素晴らしい。落葉は地先の人が袋に入れておいて⇒役所が回収していく(一方で、滝川では地先に人が住んでいないところあり、課題である) ・東一線のサクラ並木 ⇒ 状態がよくない。中途半端な状態になっており良くない → かつては植樹帯に花を植えたという方志した。 ・他の街(岩見沢、砂川)と比べても滝川市の緑は貧弱である。 → 街路樹にはモミジがよいのではないかと。(地域に親しまれる種類が良いのではないかと) → 新たに並木(街路樹)をつくりたい(江部乙の11丁目の通りは直線的に景観的に可能性はある) 	<ul style="list-style-type: none"> ・街路樹の管理にメリハリが必要 ・落ち葉の処理などは地域の協力が必要。 ・地域に親しまれる、景観的に優れた街路樹を残すことも重要

7

【Bグループの意見】

テーマ・論点	個別意見	まとめ・ポイントとなる意見
●田園・森林・河川について	<ul style="list-style-type: none"> ・サクラの木(学習園 北辰の森(役所の土地))→ふるさと振興会(ポランティア)の方が下草刈りしている ・神社の中にオオウバユリ見にくる人が、花が終わったら終わりになる。 ・駅前広場にプランターをおくことも考えられるが、水やりが重要 →決まって水やりしないと失敗する ・駅前広場にはもう少し木を植えてほしい(3本でも) →椅子を置いているが緑陰下でもないのに座る人はいない ・駅前広場の植栽帯は雑草管理しないと良くならないと思うがあまりやっていない。 ・花箱えは花がもらえれば参加できる ・道有林の下草刈りを皆でやって明るくできるとよい。→専門家が入るとおもしろいのではないか。 ・地域交流につなげるためのイベントなどは単発ではダメで定期的に開催しないと続かない ・江部乙駅前花壇の管理や花プランターでかざることは、花好きの人たち、駅の清掃している方たちがボランティアで取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・緑・花の維持管理には、市民が継続して参加できる工夫が必要

8

I 討議結果（2回目・11/6）

【全体討議の意見①】

テーマ・論点	個別意見(事務局との質疑応答含む)	まとめ・方向性
<p>●街路樹の管理について</p> <p>事務局からは、イチョウ・プラタナス・サクラなど季節の街路樹景観に優れた「東2号通」を重点管理路線とすることを提案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手をあまりかけない街路樹はどうしていくのか？最低限の管理はするのか？東一号通りのサクラなどは枯れるまで放置しておくのか？ → 支障がある場合等は最低限の管理はするが、基本的にはそのままにしておく。積極的な改善などは行わない。枯木、老木になったときに順次撤去していく。→街路樹管理の施策に連記 → 街中のプラタナスも最低限の管理は続けていくが、将来的には数を減らしていく。その代りに、重点的に管理していくと決めた路線に、お金をかけていく。→配置方針(街路樹管理の施策)に連記 ・サクラ並木を植栽した時、30年後40年後に何を想像して植えたのか？それがわからないとどうしようという評価ができない。 → 桜並木にしたかったのではないと思う。しかし、地形的に風が強く、なかなか育っていないのではないかと考えられる。 → 東一線の桜並木は昔はすくきれていた。それを復元したかったのだろう。 → 昔は畦に植わっていたが、いまは植樹帯になってしまったのでダメになってしまったのではないかと思う。 → 種類は本州産ではなかったか。 → 高速道路沿いは綺麗。うまくいかないわけではない。 ・ナナカマドが倒れやすく、強風が吹くと倒木処理が発生する。根を深く張るとい樹種の特徴がある。 → 樹種の特徴のほかに、植樹時の構造に問題がある。植えた当時は想定していなかったと思う。 → 新たに植栽する場合には、新樹種を改定すべき → 昔に植えた街路樹が大きくなってきて、いろいろな問題が明らかになってきているのであれば、それを反省して、それらを改善すべき。→現状と課題に連記 → これからは30年後50年後の状況を十分想定して植えるべき。 ・残そうとしているイチョウ並木の日照の入り込みは具体的などんなものか？ → 横枝やヒコバエの処理。清掃車で落ち葉の処理。 ・今ある大木は尊重したい。残したい。→街路樹管理の施策に連記 ・街中は枯れたら撤去し、ゆくゆくは歩道にする。 ・生きている木を積極的に撤去していくという考えではない。 ・東一線のようにとびとびの街路樹は景観的にあまり良くない ・生きているものは切らず、枯れてしまっているものを撤去 ・街路樹を減らすかわりに公園や民間の緑を支援するのはどうか。 → 東公園の緑地帯でシルバー人材センターでサクラを植えている。道脇だと育たないので、こういったスペースで育てる方がい。みんなで貸出して。そういうやり方もありかと。 → 支援することで街路の緑の演出、街路と合わせた演出につながるのでは？ ・強剪定により、幹のようになったプラタナスはあまり見たくない。 ・強剪定により、丸坊主にするのは仕方ないとしても、大木になって国道38号線のように台風で倒れるのは良くないと思う。 ・市役所に入って街路樹担当だったが、サクラの管理は大変だった。害虫、ネズミ、虫害など手の置けなかつた。街路樹の取り組みに関しては、毎日苦情があった。滝川市は緑がたくさんあるのになぜ植えるのかなど。 ・街路樹 植えられた経緯があるはず → トノキ並木 橋本市 友好都市 だから？ → プラタナスは市の木 → ゆかりがある場所は残していくべき ・50年前、一斉にプラタナス植えた。排気ガスに強いから。→ 政策が良くなかった ・フンゲストウヒなど常緑針葉樹はどうなのか？ → 市川にも少しある → 雪のある所は雪もって落ちる。冬寒い等、管理に手間がかかる。 → 新たに植えていくかというできないと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には事務局が提案した形で進める ・東2号通を景観の重点管理路線と位置づけ、重点的な維持管理を行う。 ・重点管理から外れる路線は積極的な改善は行わないが、安全確保のための最低限の管理と老木の撤去は行っていく。 ・樹木の生長に伴い新たに直面している問題を踏まえ、今後望まれる管理の仕方を考えていくべき。 ・街路樹以外に沿道敷地の公園や民間の樹木を協働で大事にしていこうというやり方もある。

9

I 討議結果（2回目・11/6）

【全体討議の意見①】

テーマ・論点	個別意見（事務局との質疑応答含む）	まとめ・方向性
<p>●公園の集約化について</p> <p>事務局からは、市街地のエリア（9区分）ごとにより利用が見込まれる場所の公園に機能を集約し、最終的に51箇所の街区公園を31箇所に集約し、これらの利用促進を図っていくことを提案。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・効率的という観点では納得するが、統合される側はその地域の人がどう使っているかが大事 → 統合するときはその地区の人と話し合いが必要。→公園再編施策の留意点として追記 ・なくなった公園の跡地は、たとえばどうしていくのか？ → 現状で使われない公園を再整備しても、結局使われない可能性が高い。現状で使われている公園をよりよくなる。案をもって地区ごとに意見を聞かなければならない。 → 防災に関する使い方、ゴミ拾いなど地域の活動の拠点などが考えられる。 ・子供たちの関係で説明していたが、高齢化が進んでいる中、高齢者の使える公園も考えているのか？ → 地域の将来を予測できるところは、福祉、児童、高齢者など画一的ではなく、整備していく。 →公園再編施策の留意点として追記 ・将来的に31公園から31公園にするとしていくが、具体的には何年先というイメージはあるか？ → 計画としては載せたい。公園施設の耐用年数を受けて、更新に合わせて。公園によって時間差はある。 → 計画自体は概ね20年 ・街区公園の誘致図だけ考えると、誘致図の線間があるが、近隣公園、地区公園も合わせれば、カバーできると思う。 ・コンパクトシティの考えや地域の実情を十分に踏まえてやるべき。 ・実際にはフローや確認しながら、一番利用価値が出るように、機能が充てるように特化する。最低限の機能は必要。 ・江都乙はどうするのか？ → 本格的な子供の遊び場としては江都乙屯田公園で整備。地域の話を聞かないとならないが江都乙中央児童公園はイベント活動ができる広場に敷いていく考え。 ・緑の基本計画に具体的な集約案を載せるのか？ → 編纂して載せる。→資料編として掲載 ・なくなる公園に関する方向性は？ → いろんな活用法、方向性を探っている。 → 無くす代わりに、残す方を特化していくという議論は重要 ・ただ単に集約ではなく、地域に合ったものに、公園の数を減らすというのは、過疎化、少子化が進む中ではうなずける。この席で議論するのは良いが、もう少し広い視点で、全市的、違う分野の視点も十分踏まえるべき。 → 今の計画は20年前のもの。人口が増えているという前提で計画されたもの。人口が減っている今と、これから先、人口が減っていくことを予測して考えている。 ・総合計画、それを踏まえた緑づくりが必要。まちづくりも含めて。 →公園再編施策の留意点として跡地利用の内容を追記 ・財政が厳しい中での計画であるということも、計画書の中にあってもいいと思う。 ・公園を新しくするとき、まったく木が無いのはどうかと思う。本のある公園にしてほしい。 ・木があるというのは滝川の特長としてもいいのでは。そのためには、街路樹などは、あるところの地域の人が管理するのではなく全市的に、全市民が合同で管理するという姿勢が大事。 ・土地の成り立ちや特徴を踏まえた集約である考えを盛り込んで計画を作っていたきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園の集約化を進めるにあたっては、地域の特性や実情を勘案し、地域と合意を得ながら進めることが必要。 ・どの公園も画一的なものではなく、福祉対応、子育て対応など役割の特化したものを取り入れていく ・集約化により廃止する公園の跡地利用についてどのような利活用の仕方が想定できるか、計画の中で触れておく必要がある。

10

II 意見まとめ

①街路樹・公共施設の緑の管理について

- ・事務局より、市街地内で良好な街路樹景観が連続した、「東2号通」をシンボリックな街路樹路線として位置づけ、重点管理を行う施策案を提案
- 方向性としては賛成。市が管理するだけでなく、市民がより親しむため、樹木を世話するきっかけとなるイベントや美化活動を工夫することなどが必要
- 重点ではない路線の扱いや今後求められる維持管理、沿道の緑景観づくりのあり方についても言及するべき

②都市公園（街区公園）の再編・集約化について

- ・事務局より、市街地の各ブロックの街区公園で、保育園や福祉施設などと一体的に利用ができるような場所などに優先的に公園機能を集約する施策案を提案
- 方向性としては賛同できるが、実施にあたっては地域の実情を勘案し、地域と合意を得ながら進めるべき
- 集約後廃止された公園跡地の利用について言及するべき。

③森林・丘陵地や田園、その他の緑について

- ・田園景観や花づくりなども、地域で誇れる緑の資源を見つけ、活かしていくところから広げていくべき。
- ・滝川駅前も、緑づくりをするためのテーマが必要。緑化の仕方も手間をかけず工夫できることがある。

11

資料編 市民懇談会説明資料

【1回目(10月30日)】

滝川市緑の基本計画 市民懇談会資料

1. 緑の現状やニーズ
2. 緑づくりの課題
3. 将来像・基本目標の設定及びその達成に向けた施策
4. 懇談会のテーマ・進め方

1. 緑の現状やニーズ

取り巻く 背景の激化	公園緑地の整備・ 維持の動向	利用する市民 ニーズの動向
<ul style="list-style-type: none"> 人口減少、少子高齢化 ・行財政的制約 	<ul style="list-style-type: none"> 緑の整備：石段崖宮緑地をはじめ各公園緑地整備により、緑地の総量は増加 ⇒人口1人当たり都市公園面積19.9㎡(19年度達成) ⇒将来市街地の緑地面積：208ha(19年度達成) 緑の管理：公園施設長寿命化計画による予防保全、遊具の安全性の確保、指定管理制度による効率的・効率的な管理、町内公等地域への維持管理の協力依頼 	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代を多く含む世代で公園の利用が著しく伸び 緑の活用：周辺の農地・丘陵地帯の緑への満足度が低い(広さ、市街地への距離)を課題と見直し、緑に親しめる空間の確保、子ども達の体験や学習の場の確保について改善が求められている。 今後進めらるべき取組として、街路樹の整備・保全、駅周辺など景観に配慮した緑化、空地地・オープンスペースの創出が求められている。 市民が参加したい活動は白化や事業所の正・花・河川、公園・道路・河川などの緑の活用、地域の振興などである。

市民懇談会からの意見・提言(平成29年度)

都市公園	<ul style="list-style-type: none"> 大人や高齢者も使える公園に(健康増進等) 場所によって管理を民間や地域に任せる 一律に管理するのではなく、特色や役割、利用状況によって対応を付け
街路樹・ 公共施設の緑	<ul style="list-style-type: none"> 生長しすぎた、落ち葉の多い街路樹の管理の問題 ⇒管理のやり付け(樹種の選定、植樹種の変更など) ⇒花植え、草花活動との連携 駅前緑が少ない
森林・丘陵地や 田園	<ul style="list-style-type: none"> リンゴ園や菜の花、桜並木、丸加高原など良いところが多い ⇒保全と有効な活用(散策・環境学習、気軽に訪れる場所)

2. 緑づくりの課題

都市公園	公共・民間 施設緑地	田園・森林・ 河川緑地	緑づくりの 取り組み
<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な都市緑化に資する緑の創出 魅力的で利用されたい公園緑地の創出 	<ul style="list-style-type: none"> これまで育まれてきた地域の緑として継承 魅力的で利用されたい公園緑地の創出 創出・更新 	<ul style="list-style-type: none"> 都市の青森な緑として維持保全 遊具の安全性の確保、指定管理制度による効率的・効率的な管理、町内公等地域への維持管理の協力依頼 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ活動への活用や経済効果の高いイベントを創出 取組み 効果的な情報発信、地域や社会との繋がりを考えた行動

12

資料編 市民懇談会説明資料

【1回目(10月30日)】

3. 将来像・基本目標の設定及び その達成に向けた施策

緑の将来像	基本目標	基本目標の達成に向けた施策	地区ごとのまちづくり アクション
<ul style="list-style-type: none"> 滝川市が誇る緑のまちづくり 滝川市が誇る緑のまちづくり 滝川市が誇る緑のまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> (1)都市公園の持続可能な維持管理 (2)公園緑地の活用促進 (3)都市公園の活用促進 	<ul style="list-style-type: none"> (1)街路樹の維持管理 (2)公共施設の緑の保全・創出 (3)公園緑地の保全 (4)公園緑地の創出 (5)公園緑地の創出 (6)公園緑地の創出 (7)公園緑地の創出 (8)公園緑地の創出 (9)公園緑地の創出 (10)公園緑地の創出 (11)公園緑地の創出 (12)公園緑地の創出 (13)公園緑地の創出 (14)公園緑地の創出 (15)公園緑地の創出 (16)公園緑地の創出 (17)公園緑地の創出 (18)公園緑地の創出 (19)公園緑地の創出 (20)公園緑地の創出 	<ul style="list-style-type: none"> 活用可能 地区 活用可能 地区 活用可能 地区

4. 懇談会の進め方・テーマ

討議テーマ①
平成29年度の懇談会の意見なども踏まえ、計画に盛り込む施策を検討しています。その中で踏み込んで方向性を明らかにしたいことがあります。

(前回の懇談会の意見) (議論を深めたい事項)

<ul style="list-style-type: none"> 都市公園 都市公園については、使われない公園を地域で使えるよう方策について、幾つか意見が出された。大人や、高齢者が使えるものを公園に設置(健康増進等)、場所によって管理を民間や地域に任せる。 	<ul style="list-style-type: none"> 滝川市新地区などは、持続可能な都市公園の確保と市民利用の促進の取組として、市街地の街区公園については、目的、ニーズを明確にし、施設機能の統合や、集約化をはかる整備を行うこととしたい。(別途資料説明)
--	---

・統合・集約化の考え方は概ねよいが
・その他補足や留意したい事項はあるか

討議テーマ② (前回の懇談会の意見) (議論を深めたい事項)

<ul style="list-style-type: none"> 前回の懇談会では街路樹、公共施設の緑について、落ち葉の処理等管理状況への問題提起が多かった。東第一児童通学路のイチゴ並木は大変にすき、きれいだ、幸せを感じる身近な緑との意見が出ている。 駅前広場周辺は緑が少ないとの指摘が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 公園と同じく、街路樹についても目的・ニーズに応じて管理の仕方を変えていく必要があると考える。 街路樹・公共施設緑地と市民の関わりについても、公園と同様、今より身近に親しみ、理解を深める取組が必要と考える。
--	---

・将来に残したい街路樹・公共施設の緑は？
・市民が街路樹・公共施設の緑に親しみ、理解を深めるためにどのような取り組みが必要か？

討議テーマ③ (前回の懇談会の意見) (議論を深めたい事項)

<ul style="list-style-type: none"> 森林・丘陵地・田園や田園については、今ある地域の資源や景観を大切に守っていく事について、意見があった。リンゴ園や菜の花、桜並木、丸加高原など良い所が多い。 散策、環境学習、気軽に訪れる場所として保全と有効な活用が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 森林・丘陵地・田園などでは、保全活用や緑化の取組みが地域の交流促進や活性化に結びついている。 これらの取組みの良い所を活かして、各地の緑づくりの課題を解決できればと考えている。
--	---

・地域の取組みで交流促進や活性化に結び付けたい場所の緑は？
・交流促進や活性化に結び付けるために緑づくりとして必要なことは？

13

資料編 市民懇談会説明資料

【1回目(10月30日)】

グループ討議のテーマ(一覧)

	討議テーマ (その1)	討議テーマ (その2)
都市公園について	・統合・集約化の考え方は概ねよいか	・その他補足や留意したい事項はあるか
市路側・公共施設緑地等について	・将来に親しい市路側・公共施設の緑は?	・市民が市路側・公共施設の緑に親しみ、理解を深めるためにできる取り組みは?
田園・森林・河川について	・地域の取り組みで交流促進や活性化に結び付けたい場所の緑は?	・交流促進や活性化に結び付けるために結びくりとして必要なことは?

補足資料:街区公園集約の考え方①

街区公園の集約化と再編

現在 → これから

従来の画一的な公園整備 → 今後は公園施設の再配置、集約化を図りつつ、利用形態も様々

補足資料:街区公園集約の考え方②

街区公園の集約化と再編

高齢社会に対応し、「高齢者や住民の健康」を推進を目的にテーマに、健康遊具をのみを整備した公園が高齢者の見守りや安心に繋がる。

一般的な子供用の遊具は設置してない。

健康遊具で体力アップ

スポーツシューズのみで行かなくても健康公園で体カブリ

高齢者の見守りに繋がる可能性もある、いつも参加している高齢者が集まるならいい? 散歩のコースでラック整備

補足資料:街区公園集約の考え方③

街区公園の集約化と再編

遊具を全く設置しないで、地域のコミュニティ活動や多目的に利用可能とする広場だけを整備した「広場公園」、公園や地域活動拠点の広場に特化した公園。

広場だけで遊具は全く設置されていない。多種多様な利用方法が創発される。

市内初の「サーフ観望」市内各地の観望、地元定住者の交流

市内各地の観望、世代間の交流、車からの定住者の交流

資料編 市民懇談会説明資料

【1回目(10月30日)】

補足資料:街区公園集約の考え方④

街区公園の集約化と再編

遊具が公園の中心に据付けられ、広場がほとんどない。

遊具の外に園路やベンチが配置。広場は無い、親が安心して子どもたを遊ばせることが可能。

補足資料:街区公園集約の考え方⑤

街区公園の集約化と再編

まち中の賑わいを創出、イベントの開催に特化した公園。

イベント開催に特化することで、短期開催であった催事が定例化、定期化、期間の延長をすることにより、さらに賑わいの創出が期待。

週末や時間帯を決めて定期的なフリーマーケットを開催

シーズンを通じた季節開催が可能なガーデン

資料編 市民懇談会説明資料

【2回目（11月6日）】



市街地の街路樹の現況
(路線ごとの樹種表示)

資料編 市民懇談会説明資料

【2回目（11月6日）】



平和公園への集約化の考え方



東滝川公園への集約化の考え方

資料編 市民懇談会説明資料

【2回目（11月6日）】



ぶらたなす公園への集約化の考え方



つつじ公園への集約化の考え方